

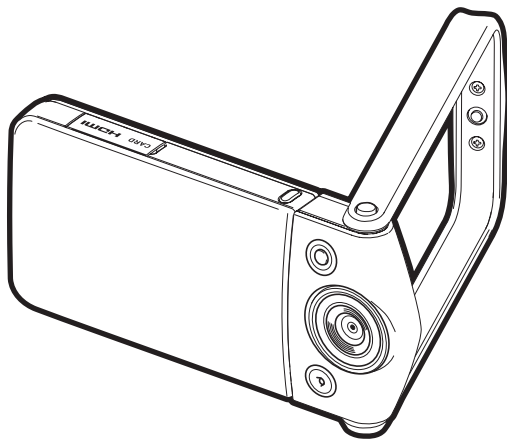
CASIO®

J

デジタルカメラ

EX-TR15

取扱説明書



このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ございます。

- 本機をご使用になる前に、必ず別冊「クイックスタートガイド」の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト (<http://casio.jp/dc/>) またはカシオホームページ (<http://casio.jp/>) でご覧になることができます。

ユーザー登録のおすすめ

ユーザー登録していただくと、サポート情報の配信などをさせていただきます。下記のWebサイトから登録手続きを行ってください。

<http://casio.jp/reg/dc/>

EXILIM

エクシリム

付属品を確認する

箱を開けたら、以下の付属品がそろっているか確認してください。そろっていないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

リチウムイオン充電電池 (NP-150)	USB-ACアダプター (AD-C54UJ)	マイクロUSBケーブル
ストラップ	取り付けかた ストラップ 取り付け部	クイックスタート ガイド(保証書付き)

あらかじめご承知ください

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 万一、EXILIM Remoteの使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えません。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、高精度な技術で作られており、有効画素は99.99%以上です。点灯しない画素や常時点灯する画素が存在することがありますが、液晶パネルの特性で、故障ではありません。

撮影前は試し撮りを

必ず事前に試し撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

目次

付属品を確認する	2
あらかじめご承知ください	2
各部の名称	7
液晶モニターの表示内容と切り替えかた	8

■ はじめにご覧ください(基本的な操作) 10

このカメラでできること	10
目的に応じてカメラのスタイルを変える	12
■ カメラのフレームを開閉する	12
■ 液晶モニターを回転させる	12
■ こんな使い方ができます	13
タッチパネルを使う	14
箱を開けたら、電池を充電する	16
■ 電池を入れる	16
■ 充電する	17
最初に電源を入れたら時計を合わせる	21
メモリーカードを準備する	22
■ 使用できるメモリーカード	22
■ メモリーカードを入れる	23
■ 新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する	24
電源を入れる/切る	25
静止画を撮影する	26
■ オート撮影モードを設定する	26
■ 撮影する	27
撮影した静止画を見る	29
撮影した静止画や動画を消去する	29
静止画撮影時のご注意	31

■ 撮影する(応用) 32

撮影モードを設定する	32
■ いろいろな作風で撮影する (アートショット)	33
■ 人物の顔を美しく撮影する (メイクアップ)	35
■ 被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす (モーションシャッター)	36
ズーム撮影する	37
自分撮りをする	39
動画を撮影する	39

■ 撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット) 42

解像感を高めた写真を撮影する (プレミアムズーム)	43
デジタル処理で白とびや黒つぶれのない写真を撮影する (HDR)	43
デジタル処理で夜景をきれいに撮影する (HS夜景)	44
デジタル処理で手ブレ補正をする (HS手ブレ補正)	44
良い顔の画像だけ撮影する (いち押しショット)	45
パノラマ画像を撮影する (スライドパノラマ)	46

II よりよい撮影のための設定

48

撮影メニューを使う.....	48
■ 画面をタッチして撮影する..... (タッチシャッター)...	49
■ セルフタイマーを使う..... (セルフタイマー)...	49
■ LEDライトを使用する..... (LEDライト)...	50
■ 静止画サイズを変更する..... (静止画サイズ)...	50
■ 動画の画質を設定する..... (動画画質)...	51
■ 明るさを補正する..... (EVシフト)...	52
■ 色合いを調整する..... (ホワイトバランス)...	53
■ ISO感度を変える..... (ISO感度)...	54
■ ピントの合わせ方を変える..... (フォーカス方式)...	54
■ 撮影直後の画像を表示する..... (撮影レビュー)...	55
■ 撮影した画像を保存する前に確認する..... (自分撮りチェック)...	56

III 静止画や動画を再生する

57

撮影した静止画を見る.....	57
撮影した動画を見る.....	57
■ 動画をカットする..... (ムービーカット)...	58
撮影したパノラマ画像を見る.....	59
画像を一覧表示する.....	59
画像を拡大して表示する.....	60
テレビで静止画や動画を見る.....	60

III 再生時のその他の機能(再生機能)

62

再生メニューを使う.....	62
■ 画像をデコレーションする..... (ペイント)...	62
■ 自動的にページ送りして楽しむ..... (スライドショー)...	63
■ 静止画から画像を切り抜く..... (キャラクター切り抜き)...	63
■ キャラクターやフレームを別の静止画に貼り付ける..... (キャラクター貼り付け)...	64
■ ファイルを消去できないようにする..... (プロテクト)...	65
■ 画像を回転させる..... (回転表示)...	66
■ 画像サイズを小さくする..... (リサイズ)...	66
■ 静止画の一部を切り抜く..... (トリミング)...	67

III 無線LANに接続する

68

無線LAN機能のできること.....	68
スマートフォンをカメラに接続する.....	69
■ お使いのスマートフォンに専用アプリ"EXILIM Remote"をインストールする.....	69
■ 無線LANの接続設定をする.....	70
スマートフォンをカメラのリモコンとして使う..... (リモート撮影)...	70
カメラで撮影した静止画をその場でスマートフォンに送る... (クイック送信)...	72
カメラで撮影した画像を選んでスマートフォンに送る(スマートフォンへ送る)...	73
静止画をリサイズしてスマートフォンに送信する..... (送信時リサイズ)...	74
カメラで撮影した画像をスマートフォンで見る..... (スマートフォンから見る)...	74

■ プリント(印刷)する 75

パソコンを使って印刷する.....	76
-------------------	----

■ パソコンを利用する 77

パソコンを使ってできること.....	77
Windowsパソコンを利用する.....	77
■ 画像をパソコンに保存する/パソコンで見る.....	78
■ 動画を再生する.....	81
Macintoshを利用する.....	81
■ 画像をパソコンに保存する/パソコンで見る.....	82
■ 動画を再生する.....	83
ファイルとフォルダについて.....	84
メモリー内のデータについて.....	85

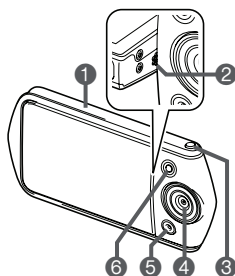
■ その他の設定について 86

液晶モニターの明るさを変える..... (液晶設定) ..	86
カメラの向きに合わせて画面表示の向きを切り替える..... (画面自動回転) ..	86
静止画をリサイズしてスマートフォンに送信する..... (送信時リサイズ) ..	86
カメラの音を設定する..... (操作音) ..	87
日付や時刻を写し込む..... (タイムスタンプ) ..	87
海外旅行先での時刻を設定する..... (ワールドタイム) ..	88
■ 海外旅行先を設定する.....	88
■ 表示する時刻を選ぶ.....	88
カメラの日時を設定し直す..... (日時設定) ..	89
日付の表示の並びを変える..... (表示スタイル) ..	89
表示言語を切り替える..... (Language) ..	89
HDMI端子の出力方法を変える..... (HDMI) ..	90
無線LAN接続するときのカメラのパスワードを 変更する..... (無線LANパスワード) ..	90
電源を入れたときに起動画面を表示する..... (起動画面) ..	90
メモリーをフォーマットする..... (フォーマット) ..	91
各種設定を購入直後の設定に戻す..... (リセット) ..	91

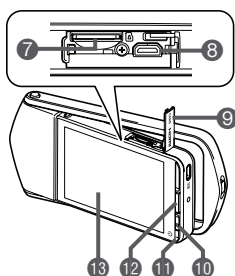
使用上のご注意	92
電源について	95
■ 充電について	95
■ 電池に関するご注意	96
■ 海外で使うときは	96
メモリーカードについて	97
リセット操作でリセットされる内容	98
故障かな?と思ったら	99
■ 現象と対処方法	99
■ 画面に表示されるメッセージ	102
撮影可能枚数/撮影可能時間	104
主な仕様/別売品	105
■ 別売品	106
索引	108

各部の名称

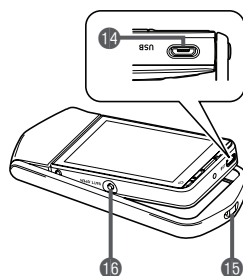
各部の説明が記載されている主なページを()内に示します。



- ① フレーム(12ページ)
- ② スピーカー
- ③ シャッター※
(フレームシャッター)
(27、56ページ)
- ④ レンズ
- ⑤ マイク(14、41ページ)
- ⑥ LEDライト(50ページ)
- ⑦ メモリーカード挿入部
(23、97ページ)

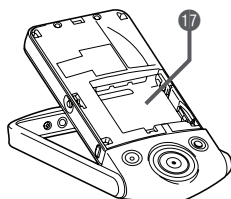


- ⑧ 【HDMI】HDMI output
(マイクロ)端子
(61ページ)
- ⑨ 【CARD HDMI】カバー
(23、60ページ)
- ⑩ 後面ランプ
(18、19、25、27ページ)
- ⑪ 【**⏻**】(電源)(25ページ)
- ⑫ シャッター※(27ページ)
- ⑬ 液晶モニター
(8、9、86ページ)



- ⑭ 【USB】端子
(17、19、78、82ページ)
- ⑮ ストラップ取り付け部
(2ページ)
- ⑯ 【BATT.OPEN】ボタン
(16ページ)

※本機には、シャッターが2つあります。



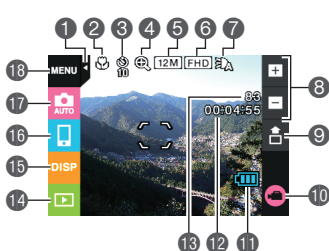
- ⑰ 電池挿入部(16ページ)

液晶モニターの表示内容と切り替えかた

液晶モニターには、さまざまな情報がアイコンや数字などで表示されます。

- 下の画面は、情報が表示される位置を示すためのものです。液晶モニターが実際にこの画面のようになることはありません。

■ 静止画撮影時



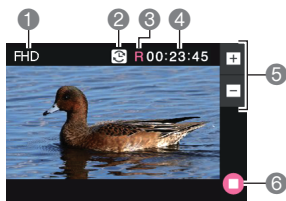
- ① しおり (25ページ)
- ② フォーカス方式 (54ページ)
- ③ セルフタイマー (49ページ)

- ④ デジタルズーム (37ページ)
- ⑤ 静止画サイズ (50ページ)
- ⑥ 動画画質 (40、51ページ)
- ⑦ LEDライト (50ページ)
- ⑧ ズームアイコン (27、37ページ)
- ⑨ クイック送信アイコン (72ページ)
- ⑩ “M” (ムービー)アイコン (27、40ページ)
- ⑪ 電池残量表示 (20ページ)
- ⑫ 動画撮影可能時間 (27ページ)
- ⑬ 静止画撮影可能枚数 (27ページ)
- ⑭ 再生モード切替アイコン (25ページ)
- ⑮ 情報表示切替アイコン (9ページ)
- ⑯ リモート撮影アイコン (70ページ)
- ⑰ 撮影モードアイコン (32ページ)
- ⑱ メニューアイコン (48ページ)

■ 参考

- ⑫ 動画撮影可能時間と⑬ 静止画撮影可能枚数は、カメラが以下の状態の場合、液晶モニターの表示が「情報表示あり」(9ページ)に設定されていても表示されません。
 - 縦表示のとき
 - 液晶モニターとレンズが同じ向きにあるとき

■ 動画撮影時



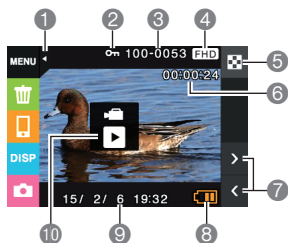
- ① 動画画質 (40、51ページ)
- ② 動画の撮影時間切替アイコン (40ページ)
- ③ 動画の残り撮影時間表示アイコン (40ページ)
- ④ 動画の撮影時間/動画の残り撮影時間 (40、104ページ)
- ⑤ ズームアイコン (27、37ページ)
- ⑥ “M” (ムービー停止)アイコン (27、40ページ)

■ 静止画再生時



- ① しおり (25ページ)
- ② プロテクト表示 (65ページ)
- ③ フォルダ名/ファイル名 (84ページ)
- ④ 静止画サイズ (50ページ)
- ⑤ 一覧表示アイコン (59ページ)
- ⑥ 画像送りアイコン (29、57ページ)
- ⑦ 電池残量表示 (20ページ)
- ⑧ 日付/時刻 (21、89ページ)
- ⑨ 撮影モード切替アイコン (25ページ)
- ⑩ 情報表示切替アイコン (9ページ)
- ⑪ 画像通信アイコン (73、74ページ)
- ⑫ 消去アイコン (29ページ)
- ⑬ メニューアイコン (48ページ)

■ 動画再生時



- ① しおり (25ページ)
- ② プロテクト表示 (65ページ)
- ③ フォルダ名/ファイル名 (84ページ)
- ④ 動画画質 (40、51ページ)
- ⑤ 一覧表示アイコン (59ページ)
- ⑥ 動画の撮影時間 (57ページ)
- ⑦ 画像送りアイコン (29、57ページ)
- ⑧ 電池残量表示 (20ページ)
- ⑨ 日付/時刻 (21、89ページ)
- ⑩ “▶” (動画再生)アイコン (57ページ)

■ 液晶モニターに表示される内容を選ぶ (DISP)

“DISP”をタッチすることにより、画面に表示される情報表示の有無が選べます。撮影モード、再生モードでそれぞれ設定できます。

- “DISP”が表示されていない場合は、“▶” (しおり)をタッチして表示させてください。
- 動画撮影時は情報表示の切り替えはできません。

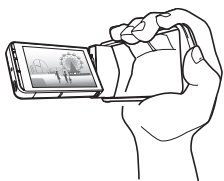
情報表示なし	画面には何も表示されません。
情報表示あり	設定内容の情報などが表示されます。
ステータス表示あり	より詳しい設定内容の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ステータス表示ありの場合は、液晶モニターで被写体を確認することはできません。

再生モードのときにステータス表示ありにすると、AE(自動露出)が適正でないときは、露出、シャッター速度およびISO感度がオレンジ色に表示されます。

はじめにご覧ください(基本的な操作)

このカメラでできること

このカメラには、撮影に便利なさまざまな機能が搭載されていますが、ここでは代表的な機能を紹介します。



さまざまなスタイルで撮影

カメラのフレームを開いたり、液晶モニターを回転させたりして、長時間の動画撮影や自分撮りが簡単にできます。

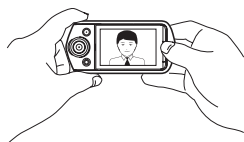
詳しくはこちら12ページ



タッチパネルで簡単操作

本機の液晶モニターはタッチパネルになっていますので、直感的に操作できます。

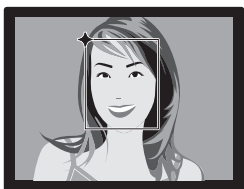
詳しくはこちら14ページ



自分撮りが簡単に

液晶モニターを回転させ、レンズと同じ向きにできます。液晶モニターに表示される画像を確認しながら、簡単に自分撮りができます。

詳しくはこちら39ページ



メイクアップ

人物の肌のコンディションをなめらかに整えたり、日差しによる顔の影をやわらげたりして、人物の顔を美しく撮影することができます。

詳しくはこちら35ページ



アートショット

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に上げることができます。本機には次の効果が搭載されています。

HDRアート、トゥインクルショット、トイカメラ、ソフトフォーカス、ライトトーン、ポップ、セピア、モノクロ、ミニチュア、フィッシュアイ

詳しくはこちら **33**ページ



キャラクター切り抜き、貼り付け

静止画に写っている人物や物などを切り抜き、別の静止画に貼り付けたり、内蔵のフレームで合成写真を作成できます。

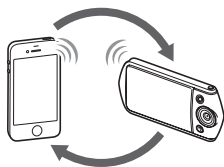
詳しくはこちら **63、64**ページ



ペイント

撮影した静止画に絵や文字を描いたり、スタンプを押すことができます。

詳しくはこちら **62**ページ



無線LAN接続

スマートフォンをカメラのリモコンとして使ったり、撮影した画像をスマートフォンに送信できます。

詳しくはこちら **68**ページ

目的に応じてカメラのスタイルを変える

本機は、フレームを開閉させたり液晶モニター部を回転させたりすることができる構造になっています。目的に応じたスタイルで撮影してください。

※ 重要

- 液晶モニターを強く押さないでください。液晶モニターが破損することがあります。
- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮されませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブローアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。

カメラのフレームを開閉する

本機のフレームは、360度回転させることができます。

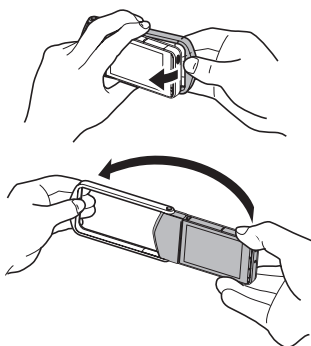
1. 液晶モニターを手前にして、フレームを持つ

2. 液晶モニター部の後面を押し出す

3. 液晶モニターの側面を持ち、フレームを開く

※ 重要

- 液晶モニター部を回転させた状態ではフレームの開閉はできません。フレームが液晶モニター部に当たって故障の原因となります。



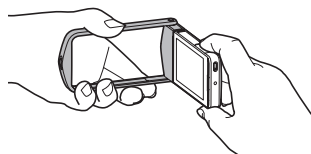
液晶モニターを回転させる

液晶モニターを回転できます。

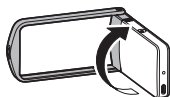
参考

- 液晶モニター部は、下の図のように持った状態で時計回りに180度、反時計回りに90度回転できます。
- 液晶モニター部は、フレームを閉じた状態でも回転できます。

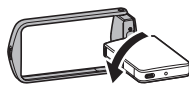
1. カメラを図のようにして持つ



2. フレームをしっかりと持ち、液晶モニター部をゆっくり回す



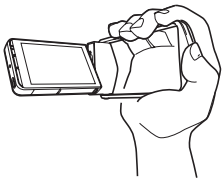
時計回りに180度



反時計回りに90度

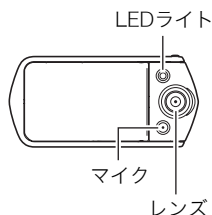
こんな使い方ができます

フレームを開いたり、液晶モニターを回転させたりして、さまざまなスタイルで撮影できます。

通常撮影	動画撮影
<p>液晶モニターをレンズと反対側にして使用します。</p> 	<p>フレームを90度開いて、フレームを持ちます。本機を逆さまにして使用することもできます。</p> 
立てて撮影	自分撮り
<p>液晶モニター部をレンズと同じ向きにして、フレームを30度ほど開いて立てます。</p> 	<p>フレームを開き、液晶モニター部をレンズと同じ向きにして、フレームにあるシャッターを押して撮影します。</p> 

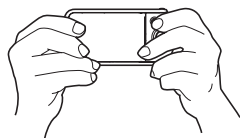
参考

- 撮影するときは、シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間とその直後はカメラが動かないようにしてください。
- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途には使用しないでください。



重要

- LEDライトに指がかかったり、近づきすぎたりしないでください。撮影時、影が写り込んだりする原因になります。



タッチパネルを使う

本機の液晶モニターはタッチパネルになっています。指を使用して、さまざまな操作ができます。

タッチ

画面に触れて離します。

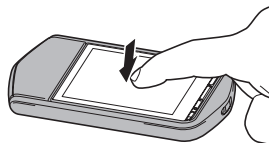
アイコンやメニュー項目を選んだり、設定したりします。



タッチし続ける

画面を触ったままにします。

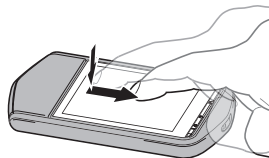
画像を早送りしたり、動画を連続してコマ送りしたりします。



ドラッグ

画面を触ったまま、上下左右に動かします。

ドラッグしたところまで画面を移動したり、前後の画像を表示したりします。



2本の指でタッチしながら広げる

画面を2本の指で触り、触ったまま指を広げます。

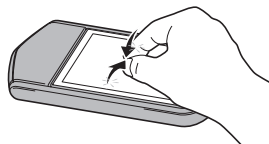
画像を拡大して表示します。



2本の指でタッチしながら狭める

画面を2本の指で触り、触ったまま指を狭めます。

画像を縮小して表示します。



重要

- 先がとがったものや硬いもので押さないでください。液晶モニターが破損することがあります。

参考

- 市販の液晶保護シートを貼ると、操作が感知されにくくなります。

箱を開いたら、電池を充電する

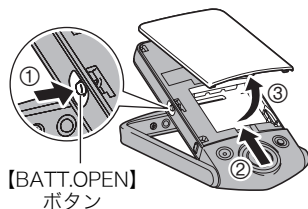
お買い上げ直後は、電池はフル充電されていません。次の手順でカメラに電池を入れた後に充電してください。

本機は、当社の専用リチウムイオン充電電池(NP-150)を電源として使用します(NP-150以外の電池は使用できません)。

電池を入れる

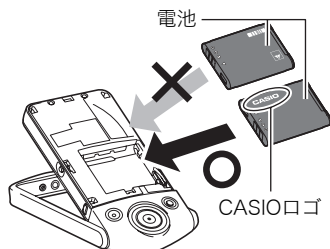
1. カバーを開ける

【BATT.OPEN】ボタンを押しながら、カバーを矢印方向にスライドします。



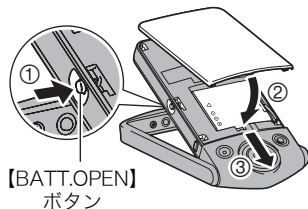
2. 電池を入れる

電池のCASIOのロゴがある面を上にして、イラストのように電池をカメラに差し込みます。



3. カバーを閉める

【BATT.OPEN】ボタンを押したまま、カバーのツメをカメラの溝に合わせ、カバーを矢印方向にスライドします。

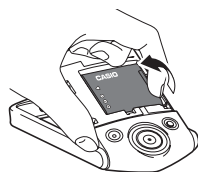


電池を交換する

1. 電池カバーを開き、電池を取り出す

イラストのように電池の端を持ち上げながら取り外します。

2. 新しい電池を入れる



充電する

電池は、次の2種類の方法で充電できます。電池を充電するときは、「カメラのフレームを開閉する」(12ページ)に従ってカメラのフレームを開いてください。

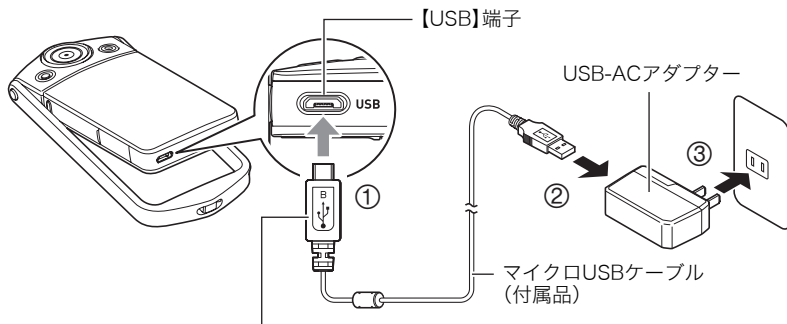
- USB-ACアダプターを使って充電する
- パソコンのUSB端子から充電する

■ USB-ACアダプターで充電する

電池をカメラに装着したまま充電します。

カメラの電源が切れた状態で、①、②、③の順に接続します。

充電時間：約2時間20分



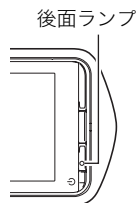
小さいコネクタ(マイクロUSBコネクタ)の \blacktriangleleft マークを液晶モニターの反対側にして差し込みます。

★ 重要

- 長期間電池を使わなかった場合や周囲の温度によっては、充電時間がさらに延びる場合もあります。また、充電時間が約5時間を超えるとタイマーが働き、フル充電でない場合でも充電を停止し、後面ランプが赤く点滅することがあります。他にも、電池の未使用期間が更に長期化した場合は約60分で充電を停止し、後面ランプが赤く点滅することがあります。その場合は、一度USBケーブルをカメラから抜いて、もう一度差し込んで充電しなおしてください。
- USB-ACアダプターがカメラと接続された状態で【 P 】(電源)ボタンを押すと、電池からの電源供給によってカメラが起動します。このとき、充電は停止します。
- 充電中、USB-ACアダプターは若干熱を持ちますが、故障ではありません。

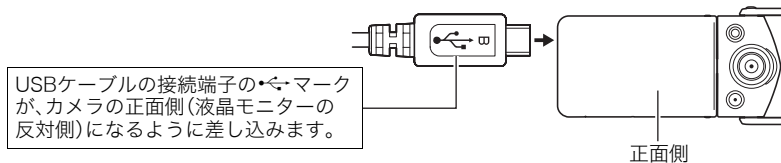
後面ランプの動作

動作	内容
赤点灯	充電中
赤点滅	周辺温度の異常／USB-ACアダプターの異常／ 電池の異常(95ページ)／タイマーによる充電終了
消灯	充電完了



USBケーブル接続時のご注意

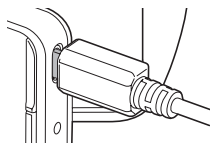
- カメラにUSBケーブルを接続するときには、下の図のように、向きに注意して接続してください。



充電時には、初めに後面ランプが点灯します。(フル充電の場合でも充電開始時に一旦点灯いたします。)

一度も点灯しない場合には、USBケーブルの向きを確認してみてください。

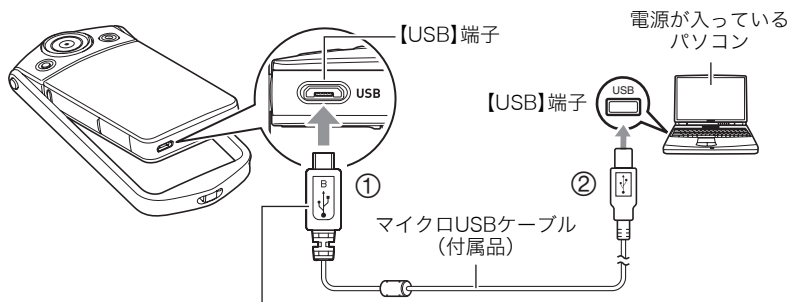
- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。



■ パソコンのUSB端子から充電する

電池をカメラに装着したまま充電します。

カメラの電源が切れた状態で、①と②の接続をします。



小さいコネクタ(マイクロUSBコネクタ)の•←-マークを液晶モニターの反対側にして差し込みます。

- パソコンに接続する前にカメラの電源が入っているときは、【**⏻**】(電源)を押して電源を切ってください。

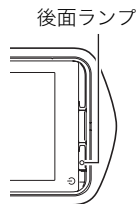
充電時間:約2時間50分

★ 重要

- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。
- 長期間電池を使わなかった場合や、パソコンの種類や接続環境によっては充電時間が約5時間を超えるとタイマーが動き、フル充電でない場合でも充電を停止します。フル充電できなかった場合はUSBケーブルを抜き差しし、再度充電してください。より早く充電を完了するためには、付属のUSB-ACアダプターで充電されることをおすすめします。また、電池の未使用期間が更に長期化した場合は約60分で充電を停止し、後面ランプが赤く点滅または消灯することがあります。その場合は、付属のUSB-ACアダプターで充電してください。
- パソコンでカメラを充電している最中に、カメラの電源を入れると充電を継続したまま、パソコンとのUSB通信状態に移行します。ただし、パソコンの種類や接続環境により給電能力が低い場合は、充電のみ停止します。このとき後面ランプは緑色に点灯します。
- パソコンが休止状態のときは充電できません。

後面ランプの動作

動作	内容
赤点灯(オレンジ点灯/点滅)	充電中
赤点滅	周辺温度の異常/充電時間の異常/ 電池の異常(95ページ)
消灯(緑点灯)	充電完了







- ()内は、充電中にカメラの電源を入れたときの動作です。

その他充電についてのご注意


- 充電機(NP-150)は本書指定の方法で充電してください。
- 本機はUSB2.0準拠のUSB端子からのみ充電できます。
- USB充電に対応する機器や電源機器には、一定の規格があります。粗悪なもの、規格から外れるもののご使用は、機器の誤動作、故障の原因になることがあります。
- 自作のパソコンや改造したパソコンでの動作は保証できません。市販のパソコンでもUSBポートの仕様によっては、USBケーブルを接続しても充電されないことがあります。
- 使用直後の熱くなった電池は、十分に充電されない場合があります。電池が冷えるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用しない場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。その場合、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。
- USB-ACアダプター(AD-C54UJ)は本機以外には使用しないでください。
- 充電は、本書で指定したUSB-ACアダプター、USBケーブルをご使用ください。指定以外のもので充電した場合は、正しく充電できないことがあります。

電池の残量を確認するには

電池が消耗すると、液晶モニターに表示される電池残量表示が下記のように変化します。

電池の残量	多い	←	→	少ない			
電池残量表示		→		→		→	
残量表示の色	水色	→	黄色	→	赤色	→	赤色

“”は電池残量が少ないことを表しています。早めに充電してください。

“”の状態では撮影できません。すぐに充電してください。

- 撮影モードと再生モードを切り替えた場合、電池残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池が消耗している状態でカメラを約30日放置すると、日時の設定がリセットされます。新たに電源を入れたとき、日付の設定をお知らせする画面が表示されますので、日付を設定してください(89ページ)。
- 電池寿命と撮影枚数に関しては106ページをご覧ください。

最初に電源を入れたら時計を合わせる

お買い上げ後、最初に電源を入れたときは

時計を設定する画面が表示されます。時計を設定しないと、撮影した画像に正しい日時が記録されません。

1. 【】(電源)を押して電源を入れる

2. 変更したい値(年、月、日、時、分)をタッチする

3. “▲”“▼”をタッチして、日時を合わせる

- “▲”“▼”をタッチし続けると、早送りできます。
- 12時間/24時間表示を切り替えるには、時間表示切替アイコンをタッチします。

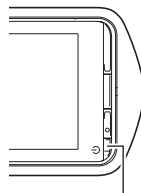
4. 日付/時刻合わせが終了したら、“OK”をタッチする


5. “オート”または“プレミアムオート PRO”のどちらかをタッチして、オート撮影モードを選ぶ

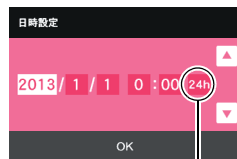
6. “決定”をタッチする

- オート撮影モードは、設定が終了したあとで切り替えることができます。詳しくは26ページをご覧ください。

日付/時刻を間違えて設定した場合、上記の手順では直せません。89ページをご覧ください。設定し直してください。



【】(電源)



時間表示切替

メモリーカードを準備する

撮影する画像を保存するため、市販のメモリーカードをご用意ください(本機にメモリーカードは付属していません)。本機はメモリーを内蔵しており、この内蔵メモリーだけでも数枚程度の静止画や短い動画の撮影はできます。メモリーカードを入れているときはメモリーカードに、入れていないときは内蔵メモリーに記録されます。

- 保存できる枚数については104ページをご覧ください。

使用できるメモリーカード

- microSDメモリーカード
- microSDHCメモリーカード
- microSDXCメモリーカード



- 使用できるメモリーカードの種類は2013年4月現在のものであります。
- microSD規格に準拠したメモリーカードに対応しており、規格上の容量は、microSDメモリーカードが2GB以下、microSDHCメモリーカードが2GB超～32GB以下、microSDXCメモリーカードが32GB超～2TB以下となります。前記のメモリーカードであっても、容量をはじめ、すべてのカードで動作を保証するものではありません。

当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。具体的なメーカー名や対応容量などの詳細は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」(<http://casio.jp/support/dc/>)をご覧ください。別冊「クイックスタートガイド」に記載の「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

警告

- メモリーカードは小さいため、乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

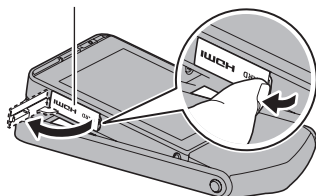


メモリーカードを入れる

1. 【**○**】(電源)を押して電源を切り、本機のフレームを開く(12ページ)

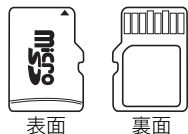
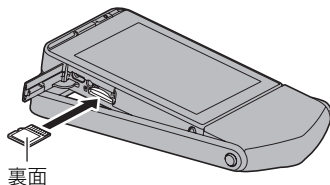
2. 【CARD HDMI】カバーのくぼみに爪を掛けて、カバーを矢印の方向に開ける

【CARD HDMI】カバー

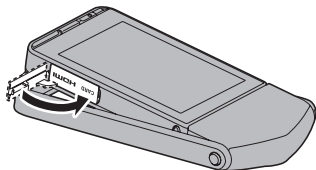


3. メモリーカードを入れる

メモリーカードの裏面を液晶モニター側にして、メモリーカード挿入口にカチッと音がするまで押し込みます。



4. 【CARD HDMI】カバーを閉じ、フレームを元の位置に戻す



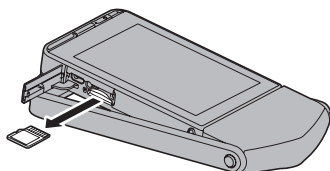
重要

- メモリーカード挿入口には指定のメモリーカード(22ページ)以外のは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切って、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にご連絡ください。

■ メモリーカードを交換する

メモリーカードを押すとカードが少し出てきますので、引き抜いて別のメモリーカードを入れます。

- 後面ランプが緑色に点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像が記録されなかったり、メモリーカードを破壊する恐れがあります。



新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する

本機で初めて使用するメモリーカードはカメラでフォーマットしてください。

※ 重要

- すでに静止画などが保存されているメモリーカードをフォーマットすると、その内容がすべて消去されます。フォーマットは普段行う必要はありませんが、画像の記録速度が遅くなったなどの異常が見られる場合にフォーマットしてください。
- メモリーカードをフォーマットするときは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットするとSD規格非準拠となり、処理速度が著しく遅くなるなど、互換性や性能等で問題が生じる場合があります。

1. カメラにメモリーカードを入れる(23ページ)

2. 電源を入れて“MENU”をタッチする

- “MENU”が表示されていない場合は、“▶”(しおり)をタッチして表示させてください(32ページ)。

3. 上下にドラッグ(15ページ)して“セットアップ”を選び、タッチする


4. “フォーマット”をタッチする

5. “フォーマット”をタッチし、“はい”をタッチする

メモリーカードのフォーマットが開始されます。

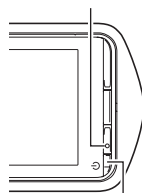
電源を入れる／切る


■ 電源を入れる

【】(電源)を押します。






後面ランプが緑色に点灯して電源が入り、撮影モードになります。

後面ランプ



【】(電源)

撮影モードと再生モードを切り替える

再生モードにする	撮影モードのときに "  " (再生) をタッチする • 撮影モードがオート、ベストショット、またはアートショットの場合は、"  " (しおり) をタッチして表示される "  " (再生) をタッチして、再生モードに切り替えることもできます。
撮影モードにする	再生モードのときに "  " (しおり) をタッチして表示される "  " (撮影) をタッチする


しおりをタッチした状態の画面



しおり

"" (再生) / "" (撮影)

■ 電源を切る

【】(電源)を押します。

参考





- 電池の消耗を抑えるため、5分間操作しないと自動的に電源が切れます(オートパワーオフ機能)。

静止画を撮影する

本機には、目的に応じた撮影モード(32ページ)が複数搭載されており、撮影方法もさまざまです。ここでは、オート撮影モードを使用した一般的な撮影方法を説明します。

オート撮影モードを設定する

本機には2つのオート撮影モードがあり、目的に応じて切り替えることができます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
 オート		一般的なオート撮影モードです。
 プレミアムオート PRO		被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、オートよりも高画質で撮影します。 <ul style="list-style-type: none">撮影に関する設定の変更は制限されます。オートよりも、電池寿命はやや短くなります。

1. 【】(電源)を押して、電源を入れる

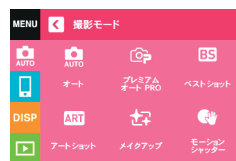
2. 上から2番目(縦表示の場合は、右から2番目)のアイコン(撮影モード)をタッチする

撮影モードのアイコンが表示されていない場合は、「▶」(しおり)をタッチして表示させてください。



撮影モードアイコン

3. “オート”または“プレミアムオート PRO”をタッチして、オート撮影モードを設定する



撮影する

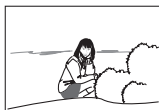
1. カメラを被写体に向ける

プレミアムオート PROで撮影しようとする、カメラが検出した撮影環境が画面右下に表示されます。

- ズームアイコンをタッチして、ズームの倍率を変更できます(37ページ)。



+ (望遠)



- (広角)

動画撮影可能時間



撮影環境

ズームアイコン

2. シャッターを半押ししてピントを合わせる

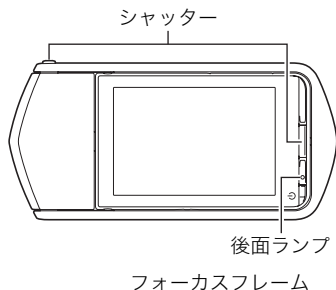
ピントが合うと“ピピッ”と音がして、後面ランプとフォーカスフレームが緑になります。

半押し



ピピッ(ピントが合います)

シャッターを半押しすると、カメラを向けている被写体に対して自動的に露出やピントを合わせます。どのくらいの力で押し込むと半押しになるかを覚えるのが、きれいな静止画を撮影するコツです。

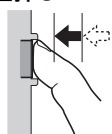


3. カメラを固定したままシャッターを最後まで押し込む

静止画が撮影されます。


全押し


最後まで



カシャッ(撮影されます)



動画を撮影するには

“” (ムービー) をタッチすると動画の撮影が開始されます。

“” (ムービー停止) をタッチすると終了します。

詳しくは39ページをご覧ください。



“” (ムービー) /
“” (ムービー停止)

- 画面をタッチして、静止画を撮影することもできます(49ページ)。
- 撮影する静止画の画像サイズを設定することができます。詳しくは50ページをご覧ください。

■ ピントが合っていないとき

フォーカスフレームが赤のまま、後面ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合っていない(被写体との距離が近すぎるときなど)。もう一度カメラを被写体に向けて、ピントを合わせてみてください。

■ オートで撮影するとき

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したい場合は、フォーカスロック(55ページ)を使います。

■ プレミアムオート PROで撮影するとき

- シャッター速度、ISO感度などに加えて、カメラが次の機能なども自動的に作動させて撮影します。
 - シャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。
 - 画面の中でピントを合わせるべき場所をカメラが自動的に判断し、そこへピントを合わせます。
 - 人物を撮影するときに、一度に最大10人まで人物の顔を検出し、ピントと明るさを合わせて撮影します。
- プレミアムオート PROで撮影すると、“プレミアムオート高画質化の処理中です”と表示される場合があります。画像処理時間が気になる場合は、オートに切り替えて撮影することをおすすめします。
- プレミアムオート PROでは、撮影環境の検出が適切にできない場合があります。その場合は、オートに切り替えて撮影してください。
- “HSI”が表示されたときは連写撮影によって1枚の画像が撮影されます。手ブレや被写体ブレに気をつけて、撮影が完了するまでカメラを動かさないでください。

撮影した静止画を見る

撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

- 動画の再生方法については57ページをご覧ください。

1. “▶” (再生) をタッチして、再生モードにする

記録されている静止画の1つが液晶モニターに表示されます。

- 撮影モードが“プレミアムオート PRO”の場合は、液晶モニター左下の撮影レビュー(55ページ)をタッチしてください。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(9ページ)。
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(9ページ)。
- 液晶モニターをタッチして、画像を拡大して表示できます(60ページ)。大切な写真を撮影したときは、撮影した画像を拡大表示して画像を確認することをおすすめします。



2. “<” “>” をタッチ、または画像を左右にドラッグして、前後の静止画に切り替える

- “<” “>” をタッチし続けると、画像を早送りできます。



参考

- 再生モード時やメニュー画面を表示している最中にシャッターを押すと、撮影モードに切り替わります。
- 再生できない画像には“?”が表示されることがあります。

撮影した静止画や動画を消去する

メモリーがいっぱいになっても、撮影した静止画や動画を消去することによりメモリーの残り容量を確保して、また新しい写真撮影ができるようになります。


重要

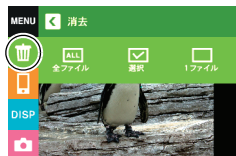
- 消去したファイルは元に戻せません。

■ 1ファイルずつ消去する

1. 再生モードにして“<” “>” で消去したいファイルを表示させる

2. “”をタッチする

- “”が表示されていない場合は、“▶”（しおり）をタッチして表示させてください。




3. “1ファイル”をタッチする

選んだ画像が消去されます。

■ 選択した画像を消去する

1. 再生モードにする

2. “”をタッチする

- “”が表示されていない場合は、“▶”（しおり）をタッチして表示させてください。

3. “選択”をタッチする

選択用の一覧画面が表示されます。

4. 消去したい画像をタッチする

タッチした画像にチェックマークが付きます。

5. 消去したい画像をすべて選択したら、“消去”をタッチする

6. “消去”をタッチする


選択した画像が消去されます。

- 消去をやめるには、手順6で“キャンセル”をタッチしてください。

■ すべてのファイルを消去する

1. 再生モードにする

2. “”をタッチする

- “”が表示されていない場合は、“▶”（しおり）をタッチして表示させてください。

3. “全ファイル”をタッチする

4. “消去”をタッチする

すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

静止画撮影時のご注意

操作について

- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

撮影時の画面について

- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出たりすることがあります。
- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した撮影モード(32ページ)で撮影されます。

蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

その他のご注意

- CMOSの特性上、シャッター速度が遅くなるほど、撮影した画像にノイズが目立って発生するようになります。そのため、本機ではシャッター速度が遅くなると自動的にノイズ低減処理を行います。このノイズ低減処理により、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。ノイズ低減処理が行われるシャッター速度は、設定や環境によって異なります。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間は操作しないでください。
- CMOS撮像素子の原理上、撮影モードによっては、動きの速い被写体が歪むことがあります。

■ オートフォーカスの制限事項

- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
 - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
 - 強い逆光のもとにある被写体
 - 明るく光っている被写体
 - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
 - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
 - 暗い場所にある被写体
 - 手ブレをしているとき
 - 動きの速い被写体
 - 撮影範囲外の被写体
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(55ページ)で撮影してみてください。

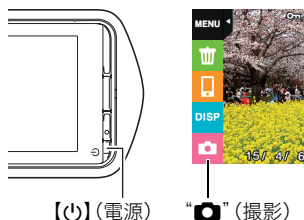
撮影する(応用)

本機では、液晶モニターをタッチして、撮影に関する設定を変更することができます。

■ 撮影項目を設定する

1. 【⏻】(電源)を押して電源を入れ、撮影モードにする

- 再生モードの場合は、“📷”(撮影)をタッチして、撮影モードに切り替えてください。



2. 設定したい項目をタッチする

- 左側のアイコンが表示されていない場合は、“▶”(しおり)をタッチして表示させてください。

- 1 しおり(25ページ)
- 2 メニュー(48ページ)*
- 3 撮影モード(32ページ)
- 4 リモート撮影(70ページ)
- 5 情報表示切替(9ページ)
- 6 再生モード切替(25ページ) /
メイクアップレベル(35ページ)
- 7 ズーム(37ページ)
- 8 クイック送信(72ページ)
- 9 ムービー(40ページ)



※ 撮影モードによって使用できないメニュー項目があります。

撮影モードを設定する

本機には、目的に応じたさまざまな撮影モードがあります。







1. 撮影モードにして、撮影モードアイコンをタッチする

- 撮影モードアイコンが表示されていない場合は、“▶”(しおり)をタッチして表示させてください。



2. 使用したい撮影モードのアイコンをタッチする

選んだ撮影モードに設定されます。

 オート	一般的なオート撮影モードです(26ページ)。
 プレミアムオート PRO	被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、オートよりも高画質で撮影します(26ページ)。
 ベストショット	あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、選んだシーンに合わせてカメラの設定が切り替わります(42ページ)。
 アートショット	見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に上げることができます(33ページ)。
 メイクアップ	人物の肌のコンディションをなめらかに整えたり、日差しによる顔の影をやわらげたりして、人物の顔を美しく撮影することができます(35ページ)。
 モーションシャッター	被写体の動きを感知すると、セルフタイマーが作動するように設定することができます(36ページ)。

いろいろな作風で撮影する(アートショット)

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に上げることができます。

シーン	内容
HDRアート	HDR撮影(43ページ)を応用し、従来の映像表現を超えた写真に上げます。
トゥインクルショット	やわらかい雰囲気にして、光の点をキラキラ輝かせた写真に上げます。
トイカメラ	周辺を暗くし、色合いを変えて、トイカメラ風に上げます。
ソフトフォーカス	全体をぼかして、やわらかく幻想的に上げます。
ライトトーン	コントラストを弱めにして、上品で落ち着いた雰囲気に上げます。
ポップ	彩度を強調して、色彩豊かに上げます。
セピア	セピアカラーにしてレトロ風に上げます。
モノクロ	コントラストを強調し、粒状感をつけ、印象的に上げます。
ミニチュア	一部をぼかして、ミニチュア模型を撮影したように上げます。
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような、ユーモラスな作風に上げます。

1. 撮影モードにして、撮影モードアイコン(32ページ)をタッチする

2. “ART”(アートショット)をタッチする

3. 用途に合ったシーンをタッチする

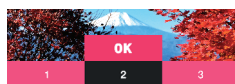
HDRアート、トゥインクルショット、トイカメラ、ソフトフォーカス、ライトトーン、ポップ、セピア、モノクロ、ミニチュア、フィッシュアイの中から選んでください。

- 画面右側の矢印をタッチすると、他のシーンが表示されます。
- 画面右上に表示される“**i**”をタッチしてからアートショットのシーンをタッチすると、そのシーンの詳しい内容が表示されます。



4. “ART”アイコンをタッチする

選んだシーンの効果の強弱等が設定できます。ただし、ミニチュアは、効果を調整できません。



シーン	調節内容
HDRアート	効果の強さ
トゥインクルショット	効果の種類
トイカメラ	色合い
ソフトフォーカス	効果の強さ
ライトトーン	色合い
ポップ	効果の強さ
セピア	効果の強さ
モノクロ	効果の強さ
フィッシュアイ	効果の強さ

5. 設定したいレベルをタッチする

6. “OK”をタッチする

7. シャッターを押して撮影する


参考


- 本機を平らなところに置くなどして、カメラを固定させて撮影すると、より大きな効果が得られやすくなります。
- HDRアートでの撮影では、以下の設定に固定されます。
 - LEDライト:切
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

人物の顔を美しく撮影する(メイクアップ)

人物の肌のコンディションをなめらかに整えたり、日差しによる顔の影をやわらげたりして、人物の顔を美しく撮影することができます。



1. 撮影モードにして、撮影モードアイコン(32ページ)をタッチする

2. “” (メイクアップ)をタッチする

3. “” (しおり)をタッチする

4. “” (メイクアップレベル)をタッチする

5. 設定したいモードとレベルをタッチする

 美白モード	美白効果を高めた写真に仕上げます。
 ナチュラルモード	肌の色をきれいに仕上げます。
メイクアップレベル	効果の強弱を“0”(切)～“+12”(強)で調整できます。



6. “OK”をタッチする

7. シャッターを押して撮影する






参考

- メイクアップ機能は、撮影モードがプレミアムオート PROおよびモーションシャッターの場合も使用できます。撮影モードを設定したあとに、上記手順3～7に従ってメイクアップモードとレベルを設定してください。



被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす (モーションシャッター)

液晶モニターで設定したアイコンの中でカメラが動きを感知すると、自動でセルフタイマーのカウントが始まり撮影できます。離れた場所から手を振ったりしてセルフタイマーを操作することができますので、自分撮りをするときに便利です。



1. 撮影モードにして、撮影モードアイコン(32ページ)をタッチする
2. “” (モーションシャッター)をタッチする
3. セルフタイマー起動アイコン“”と撮影レビューアイコン“”をドラッグして、動きが感知される位置を設定する
 - 2つのアイコンは離れた場所に設定してください。アイコンを重ねて配置すると、もう一方のアイコンが自動で移動します。
4. シャッターを全押しする
セルフタイマー起動アイコンが“”に変わり、撮影待機状態になります。
5. カメラに向かって手を振るなどして、設定したセルフタイマー起動アイコン“”の中で動く
設定したアイコンの中で被写体の動きを感知すると、セルフタイマーのカウントが始まります。セルフタイマーのカウントが0になると撮影され、撮影待機状態に戻ります。

参考

- モーションシャッターのセルフタイマーは、2秒で固定されています。
- 静止画を撮影すると、撮影レビューアイコン“”が表示されます。“”アイコン付近で動きを感知すると、撮影した画像が3秒間表示されます。
- モーションシャッターでの撮影を6回続けると、撮影待機状態は自動的に解除されます。
- 撮影待機状態のときにシャッターを押す、または画面をタッチすると撮影待機状態は解除されます。
- 枠の中の背景と被写体の色の差が少ないときや、被写体が離れすぎて小さいときは、正常に撮影できない場合があります。

ズーム撮影する

本機には、HDズーム、超解像ズーム、デジタルズームが搭載されています。ズームの倍率は画像サイズの設定によって異なります。

HDズーム	切り出した画像を拡大することなくズームアップ効果を得る方式で、画質の劣化はありません。
超解像ズーム	超解像技術により画質の劣化を抑える方式です。
デジタルズーム	画像中央をデジタル処理で拡大する方式で、画質の劣化が起きます。

1. 撮影モードにして、画面のズームアイコンをタッチする



+ (望遠)



- (広角)

ズームアイコン



+ (望遠) : 被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。

- (広角) : 被写体が小さくなり、写る範囲が広がります。

2. シャッターを押して撮影する

参考

- 望遠で撮影するときは、手ブレがおきやすくなるため、本機を平らなところに置くなどして、カメラを固定させて撮影することをおすすめします。
- ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。ズームを使いたいときは、“” (ムービー) をタッチする前にズーム操作をしてください。
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- デジタルズーム中は、“” が表示されます。

■ ズーム倍率について

デジタルズームの倍率は静止画サイズ(50ページ)、撮影モード(32ページ)の設定によって異なります。静止画サイズが小さいほど高倍率になります。

オート、プレミアムオート PRO、モーションシャッター

静止画サイズ	解像度が低下しない倍率の境界	最大倍率
12M	1.5倍	4.0倍
3:2		
5M	2.3倍	6.2倍
VGA	9.4倍	15.9倍

ベストショット(プレミアムズーム)

静止画サイズ	解像度が低下しない倍率の境界	最大倍率
12M	2.0倍	4.0倍
3:2		
5M	3.1倍	6.2倍
VGA	12.5倍	15.9倍

アートショット、ベストショット(プレミアムズーム除く)

静止画サイズ	解像度が低下しない倍率の境界	最大倍率
12M	1.0倍	4.0倍
3:2		
5M	1.6倍	6.2倍
VGA	6.2倍	15.9倍

自分撮りをする

液晶モニターとレンズを同じ向きにすると、液晶モニターで自分の姿を確認しながらセルフタイマーで自分撮りができます。

- 自分撮り専用のセルフタイマーを使用する場合は、以下の撮影モードに設定してください。
 - オート
 - プレミアムオート PRO
 - メイクアップ

1. 液晶モニター部をレンズ側に回転させて、液晶モニターをレンズと同じ向きにする(12ページ)

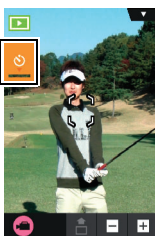
2. 撮影モードを“オート”、“プレミアムオート PRO”または“メイクアップ”にする(26、35ページ)



3. “⌚” (セルフタイマー) を下にドラッグして、セルフタイマーの時間を設定する

セルフタイマーのカウントが始まり、カウントが0になると撮影されます。

- セルフタイマーは2～10秒に設定できます。ドラッグする幅が長いほど、セルフタイマーの時間が長くなります。
- セルフタイマーを中止したい場合は、カウント中にセルフタイマーが表示されていない部分をタッチしてください。
- カウント中にシャッターを押すと、カウントを中止して撮影できます。



“⌚” (セルフタイマー)

動画を撮影する

ここでは、動画の撮影方法を説明します。

- 本機では、以下の撮影モードで動画を撮影できます。
 - オート
 - プレミアムオート PRO
 - ベストショット (HS夜景)
 - メイクアップ

1. 撮影モードにして“MENU”をタッチする




- “MENU”が表示されていない場合は、“▶” (しおり) をタッチして表示させてください。

“MENU”



2. 画面を上下にドラッグして“動画画質”を表示させて、タッチする

3. 設定したい画質をタッチする

動画画質	撮影画面のアイコン表示	撮影速度 (フレームレート)	画像サイズ (pixels)	説明
Full HD		30fps	1920×1080	高精細な動画(フルハイビジョン動画)を撮影できます。アスペクト比は16:9で撮影されます。
HD		30fps	1280×720	高品位な動画(ハイビジョン動画)を撮影できます。アスペクト比は16:9で撮影されます。
HS240		240fps	512×384	ハイスピード動画を撮影できます。 ・音声は録音されません。

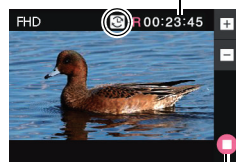
4. “MENU”をタッチ、またはシャッターを押してメニュー画面を閉じる

5. “⏻” (ムービー)をタッチする

撮影が開始されます。

- 動画画質を“Full HD”または“HD”に設定した場合、撮影中は音声(モノラル)も録音されます。
- 撮影中に“⏻”をタッチすると、撮影可能な残り時間が“R”とともに表示されます。もう一度タッチすると、撮影時間に戻ります。
- 動画画質を“Full HD”または“HD”に設定した場合、撮影中にズームアイコンをタッチしてズーム操作をすることができます。
- 動画のフォーカス方式(54ページ)を“マクロ”に設定してある場合は、動画撮影前にシャッターを半押しすることで、ピントを合わせ直すことができます。

撮影時間/
撮影可能な残り時間



“⏻” (ムービー) /
“⏻” (ムービー停止)

6. “⏻” (ムービー停止)をタッチして撮影を終了する

- 撮影可能な動画は、1ファイル最大4GBまでです。これを超えると自動的に撮影は終了します。

動画撮影時の手ブレ軽減

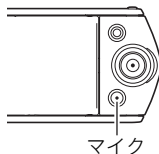
Full HD/HD動画では、手ブレを軽減しながら動画撮影することができます。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。

ハイスピード動画で撮影時のご注意


- ハイスピード動画撮影時は明るい環境で撮影してください。
- ハイスピード動画では光源フリッカ(ちらつき)が横帯として写ることがあります。

重要

- 動画を長時間撮影した場合、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。また、本体の発熱を抑えるため、液晶モニターの明るさ設定が変わることがあります。
- Full HD/HD動画では音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
 - 指などでマイクをふさがないようにください。
 - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
- 高い気温など高温の環境で動画を長時間撮影した場合、撮影画像にノイズ(輝点)が入ることがあります。また、内部温度の上昇により動画撮影の途中で強制的に動画撮影が終了する場合があります。その場合は本機の温度が下がってから動画撮影を行うようにしてください。
- 内蔵メモリー使用時やメモリーカードの種類によっては、処理速度が遅くなる場合がありますので、できるだけ超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。ただし、超高速タイプのメモリーカードであっても、すべての動作を保証することはできません。動画の画質設定によっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、ムービーアイコンが黄色になります。



参考

- 動画撮影中(ハイスピード動画を除く)もズームの操作ができます(37ページ)。ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。ズームを使いたいときは、“” (ムービー)をタッチする前にズーム操作をしてください。
- 動画撮影時は超解像ズームは無効です(37ページ)。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。本機を置いて使用することをおすすめします。
- ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。動画撮影をはじめる前にシャッターを半押ししてピントを合わせてから撮影してください。

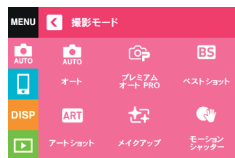
撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

さまざまな撮影シーンがカメラに収録されています。各シーンには被写体や撮影条件に合った最適なカメラの設定が記録されています。望みのシーン(ベストショット)を選ぶだけで最適なカメラの設定が完了します。

■ 操作方法

1. 撮影モードにして撮影モードアイコン(32ページ)をタッチする

- 撮影モードアイコンが表示されていない場合は、「▶」(しおり)をタッチして表示させてください。



2. “BS”(ベストショット)をタッチする ベストショットのシーン一覧が表示されます。

3. 撮影したいシーンをタッチする

- 画面右上に表示される“i”をタッチしてからベストショットのシーンをタッチすると、そのシーンの詳しい内容が表示されます。



4. 静止画を撮影するときはシャッターを押し、動画を撮影するときは“⊙”(ムービー)をタッチする

■ ベストショット撮影の注意

- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。
- “HS夜景”でのみ、動画を撮影できます。“HS夜景”で動画画質を“HS240”に設定した場合、オート撮影モードでの動画撮影になります。

解像感を高めた写真を撮影する(プレミアムズーム)

超解像技術の応用と連写した複数枚の画像を用いることにより、画像全体の解像感をさらに高めた画像を撮影することができます。倍率については38ページをご覧ください。

- この機能での撮影では、撮影可能になるまでしばらく時間がかかることがあります。

1. “撮影モード”画面の“BS”(ベストショット)をタッチする

2. “プレミアムズーム”のシーンをタッチする

3. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能はきめ細かい模様などを撮影するときに効果があります。
- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に“切”になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

デジタル処理で白とびや黒つぶれのない写真を撮影する(HDR)

露出の異なる複数の撮影を連写して合成することで、明暗差の大きな被写体でも白とびや黒つぶれのない写真が撮影(HDR撮影:ハイダイナミックレンジ撮影)できます。

1. “撮影モード”画面の“BS”(ベストショット)をタッチする

2. “HDR”のシーンをタッチする

3. シャッターを押して撮影する

参考

- 本機を平らなところに置くなどして、カメラを固定させて撮影すると、より大きな効果が得られやすくなります。
- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に“切”になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

デジタル処理で夜景をきれいに撮影する(HS夜景)

撮影状態をカメラが自動的に判定し、手持ち撮影と判定されたときは、1回のシャッターで連写をし、連写画像を自動的に合成してブレの少ない夜景撮影ができます。

1. “撮影モード”画面の“BS”(ベストショット)をタッチする

2. “HS夜景”のシーンをタッチする

3. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に“切”になります。
- 手に持って撮影する場合は連写撮影となりますので、被写体はできるだけ動かないようにしてください。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- カメラを置いて撮影しても揺れがある場合は、手持ちと判定されることがあります。
- 周囲が極端に暗い場合、露出不足により適正な明るさで撮影できないことがあります。
- この機能での撮影では、“ISO感度”は“AUTO”に固定されます。

デジタル処理で手ブレ補正をする(HS手ブレ補正)

1回シャッターを押すと連写をし、連写した画像を自動的に合成することで、手ブレが軽減された撮影ができます。

1. “撮影モード”画面の“BS”(ベストショット)をタッチする

2. “HS手ブレ補正”のシーンをタッチする

3. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に“切”になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- この機能の許容範囲以上の手ブレがあったり、被写体が動いていたりするときは、補正できずにブレた画像となることがあります。
- “ISO感度”は“AUTO”に固定されます。

良い顔の画像だけ撮影する(いち押しショット)

1回シャッターを押すと、連写した画像の中から自動的に、ブレしていない画像、被写体の人物すべての目が開いている画像、被写体の人物すべてができるだけ笑顔の画像を選んで、最良の1枚を保存します。

1. “撮影モード”画面の“BS”(ベストショット)をタッチする

2. “いち押しショット”のシーンをタッチする

3. シャッターを押して撮影する

- シャッターを押したあと、“処理中です しばらくお待ちください”とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されたからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。

参考

- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に“切”になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- 連写した画像がすべてブレた画像の場合は、ブレた画像が保存されてしまいます。
- 以下のようなときは目をつぶっているかどうかや、笑っているかどうかの認識がされませんので、笑っていない被写体の画像や、目をつぶった被写体の画像が保存されるときがあります。
 - 顔の一部、もしくは全面が、影などの影響で暗くなっている場合
 - 髪の毛が、目に被っている、もしくは接近している場合
 - 眼鏡をかけている場合
 - 顔が小さい場合
 - 顔が正面を向いていない場合
- 撮影される被写体の人数が多くなると、撮影後の処理に時間が多くかかります。

パノラマ画像を撮影する(スライドパノラマ)

カメラを動かしている間、複数の画像を撮影し、その画像をつなぎ合わせて、レンズの広角度を超えたパノラマ画像を作成することができます。



- 合成した画像は、下記のサイズで保存されます。
スライド方向が右/左方向の場合: 最大11520×1080 pixels
スライド方向が上/下方向の場合: 最大1920×7296 pixels
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- パノラマ画像は、横方向で約360度、縦方向で約180度の角度で撮影できます。

1. “撮影モード”画面の“BS”(ベストショット)をタッチする

2. “” (スライドパノラマ)のシーンをタッチする

3. スライドしたい方向(カメラを動かす方向)のアイコンをタッチする

スライド方向は、“→”(右) / “←”(左) / “↑”(上) / “↓”(下)の4種類があります。



4. 被写体の端にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる

5. シャッターを全押しし、画面上に表示されるスライドカーソルが画面の端(スライド方向が右の場合は右端)に着くまで、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす

- スライドカーソルが画面の端に着くまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
- カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。カメラを動かすのを止めたあと、“処理中です しばらくお待ちください”とメッセージが表示されてから、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。



スライドカーソル

- 以下の場合は、スライドパノラマ撮影に適していません。
 - 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
 - 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
 - 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体
 - 主な被写体とカメラとの距離が近い
 - 動いている被写体
 - 周囲が暗い場合
- 以下の場合、スライドパノラマ撮影が中断されることがあります。
 - 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
 - カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした場所の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。
- ちらつきのある光源（蛍光灯など）がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。
- スライドパノラマ撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に“切”になります。

よりよい撮影のための設定

本機では、メニューを操作してさまざまな設定ができます。

撮影メニューを使う

■ メニュー画面の操作例

1. 撮影モードにして“MENU”をタッチする

メニュー画面が表示されます。

- “MENU”が表示されていない場合は、“▶”（しおり）をタッチして表示させてください。
- メニューの内容は、撮影モードと再生モードで異なります。



2. 画面を上下にドラッグして設定したい項目を表示させる

3. 設定したい項目をタッチする

4. 画面の表示に従って内容を設定する

- “MENU”をタッチまたはシャッターを押すと、メニュー操作を中断し、メニューを消します。

参考

- 撮影モードによって使用できないメニュー項目があります。

■ メニュー操作の本書記載について

本書ではメニュー操作の手順を下記のように記載します。記載の順に画面をタッチしてください。

操作手順： 撮影モードにする → MENU → タッチシャッター

画面をタッチして撮影する(タッチシャッター)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → タッチシャッター

画面をタッチして静止画を撮影することができます。

1. “入”をタッチする

2. カメラを被写体に向ける

3. 撮りたいタイミングで、画面をタッチする

ピントが合い、撮影されます。

- タッチシャッターを“入”に設定していても、シャッターを押して撮影することができます。



参考

- 撮影モードを“オート”にすると、タッチした位置にピントが合います。
- 撮影モードを“プレミアムオート PRO”にすると、自動的にピントを合わせるべき場所にピントが合います。

セルフタイマーを使う(セルフタイマー)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → セルフタイマー

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる(撮影される)ようにすることができます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
10秒		10秒後に撮影されます。
2秒		2秒後に撮影されます。シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
切	なし	セルフタイマー撮影は行いません。

- カウントダウン中にシャッターを押すと、セルフタイマーを解除することができます。



参考

- 以下の状態の場合、メニューモードのセルフタイマーを使用できません。
 - スライドパノラマ(46ページ)
 - モーションシャッター(36ページ)
 - 液晶モニターとレンズが同じ向きにあるとき

LEDライトを使用する(LEDライト)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → LEDライト

暗い場所で撮影するときなどに使用します。被写体までの距離が遠くなると、効果が落ちます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
オート		周囲が暗いと、シャッターを半押ししてピントを合わせているときや、撮影時にLEDライトが自動で点灯します。
入		撮影時に、LEDライトが常に点灯します。
切	なし	LEDライトは点灯しません。




重要

- 人の目に近づけて発光したり、発光部を直視しないでください。
- 被写体を画像の真ん中にして撮影されることをおすすめします。
- 広角レンズを採用しているため、中心部が明るく、周辺部分が暗くなる傾向があります。

静止画サイズを変更する(静止画サイズ)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → 静止画サイズ

撮影する静止画の画像サイズを設定できます。

画素数(pixels)	撮影画面のアイコン表示	プリント時の用紙サイズの目安や用途	特徴
12M (4000×3000)		ポスター プリント	精細な画像が得られ、パソコンなどでトリミングしても画像が粗くならないです。
3:2 (4000×2656)		ポスター プリント	
5M (2560×1920)		A4プリント	精細な画像が得られます。
VGA (640×480)		Eメール	データ量が少ないので、Eメールに添付するのに有効です。ただし、画像は粗くなります。

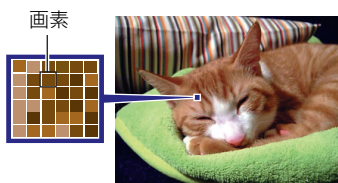
- お買い上げいただいたときは、12M(1200万画素・pixels)で撮影するように設定されています。
- 3:2を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率(3:2)に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。

- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。

■ 画素数と画像サイズについて

デジタルカメラの画像は、小さな点(画素・pixels)の集まりでできています。

画素数は、数が多いほど精細な写真が撮れますが、サービスサイズ(L版)へのプリント、Eメールに添付して送る、パソコンの画面で見る、などの用途では画素数が少なくても良い場合があります。その画像がいくつの画素でできているかを示すものが画像サイズで、横×縦の画素数で表します。



例:

画像サイズ	画素数
12M	4000×3000(約1200万画素)
5M	2560×1920(約500万画素)

- 画像サイズが大きいほど画素数が多くなり、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。
- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→104ページ
- 動画の画像サイズについて→104ページ
- 撮影済み静止画の画像サイズを小さくする(リサイズ)→66ページ

動画の画質を設定する(動画画質)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → 動画画質

動画の画質と撮影方法を設定することができます。詳しくは39ページをご覧ください。

明るさを補正する(EVシフト)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → EVシフト

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。

- 露出補正值: $-2.0\text{EV} \sim +2.0\text{EV}$
- 補正単位: $1/3\text{EV}$

1. 設定したい値をタッチする

- 露出補正值を元に戻したいときは、“0.0”に設定してください。



-2.0 ← → +2.0

一方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。



＋方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。



2. “OK”をタッチする

露出値が補正されます。次に露出補正を変えるまで、設定した露出補正值で撮影できます。ただし、電源を切ると設定は“0.0”に戻ります。

参考

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。










色合いを調整する(ホワイトバランス)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → ホワイトバランス

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写る、または白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかった写るなどの現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整します。

1. 設定したい撮影条件をタッチする

タッチした撮影条件を、液晶モニターで確認できます。

設定項目	設定内容
 オートWB	自動的にホワイトバランスを調整
 太陽光	晴天時の野外での撮影用
 曇天	薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用
 日陰	晴天時のビルや木の陰などの撮影用
 昼白色	白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
 昼光色	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
 電球	電球の雰囲気を消した撮影用
 マニュアルWB	さまざまな光源下で適正な色に手動で調整することができます。 ① マニュアルWB をタッチする ② 撮影場所で画面全体に白い紙を写す ③ アイコンが表示されていない部分をタッチする  設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されます。




- “**Auto** オートWB”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。この場合は、太陽光、曇天などの撮影条件を指定してください。

2. “OK”をタッチする

ISO感度を変える(ISO感度)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → ISO感度

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。




設定項目	設定内容		
AUTO	撮影条件により自動調整します。		
ISO 100	感度が低い  感度が高い	シャッター速度が遅い  シャッター速度が速い (暗い場所での撮影向き)	なめらかに撮れる (ノイズが減る)  多少ざらつく (ノイズが増える)
ISO 200			
ISO 400			
ISO 800			
ISO 1600			
ISO 3200			

- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間は操作しないでください。

ピントの合わせ方を変える(フォーカス方式)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → フォーカス方式

フォーカス方式を変えると、より確実にピントを合わせることができます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	用途	ピントの合わせかた		ピントが合う距離※1	
			静止画	動画	静止画	動画
オートフォーカス	なし	一般的な撮影	自動	固定焦点	約8cm～ ∞(無限遠)	約46cm～ ∞(無限遠)
マクロ		近くのを撮影			約8cm～ 約50cm	約17cm～ 約27cm
パンフォーカス		比較的広い範囲にピントが合うように撮影	固定焦点		距離固定※2	約46cm～ ∞(無限遠)
無限遠		景色などの遠景の撮影	固定		無限遠	

※1 ピントが合う距離はレンズ表面からの距離です。

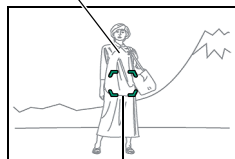
※2 撮影条件により距離が異なります。

フォーカスロックについて

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックを使います。

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする
2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図にカメラを動かす
3. シャッターを最後まで押し込む

ピントを合わせたい被写体



フォーカスフレーム



参考

- フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。
- タッチシャッターが“入”のときは、フォーカスフレームは表示されません。

撮影直後の画像を表示する(撮影レビュー)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → 撮影レビュー

撮影直後の画像が表示されます。

タイプ1	撮影した画像が、液晶モニターの全面に約1秒間表示されます。
タイプ2	撮影した画像が、液晶モニターの左下に表示されます。撮影した画像をタッチすると、再生モードに切り替わり、撮影した画像が全面に表示されます。
切	撮影した画像は表示されません。

- “タイプ1”を選ぶと、絞り値、シャッター速度、ISO感度は、AE(自動露出)が適正でない場合、各値がオレンジ色で表示されます。

撮影した画像を保存する前に確認する(自分撮りチェック)

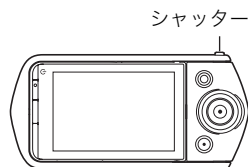
操作手順: 撮影モードにする → MENU → 自分撮りチェック

“入”にすると、フレームにあるシャッターを押して自分撮りをしたときに、撮影した画像を確認してから保存できます。

“切”にすると、撮影した画像は常に保存されます。自分撮りチェック機能は、以下の撮影時に使用できます。

撮影モード : オート、プレミアムオート PRO、メイクアップ

液晶モニター: レンズと同じ向き








1. “入”をタッチする

2. フレームにあるシャッターを押して撮影する

3. 撮影した画像を確認する

- 画像を撮影後、以下の操作で画像を確認したり保存できます。

設定項目	設定内容
	保存前の画像を拡大、または元の倍率まで縮小します。 <ul style="list-style-type: none">• 2本の指でタッチしながら広げるまたは狭めて、画像を拡大または縮小することもできます。• 画面をドラッグして、拡大表示される位置を変えることができます。
	
	拡大した画像を元のサイズに戻します。
	画像を保存しないで撮影待機状態に戻ります。
	撮影した画像を保存し、撮影待機状態に戻ります。 <ul style="list-style-type: none">• 画像を拡大させた状態で“OK”をタッチしても、撮影時のサイズで画像が保存されます。

静止画や動画を再生する

撮影した静止画を見る

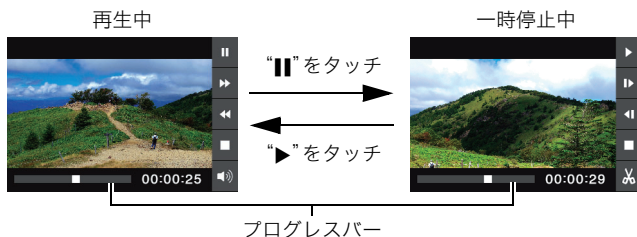
操作方法については29ページを参照してください。

撮影した動画を見る

1. “▶” (再生) をタッチして、再生モードにする
2. “<” “>” をタッチ、または画像を左右にドラッグして、再生したい動画 (ムービー) を表示させる
 - “<” “>” をタッチし続けると、画像を早送りできます。



3. “▶” (動画再生) をタッチして、再生を始める



動画の再生中にできること



一時停止/再生する	“ ” / “▶” をタッチします。
早送り/早戻しする	再生中に“◀◀” / “▶▶” をタッチします。 <ul style="list-style-type: none">• タッチすることにより、早送り、早戻しのスピードが速くなります。• 通常の再生に戻るときは“▶” をタッチします。
再生をやめる	再生中に“■” をタッチします。
音量を調節する	再生中に“🔊” をタッチして、ボリュームバーのつまみをドラッグします。 <ul style="list-style-type: none">• 音量調節は、再生中にだけできます。
コマ送りする	一時停止中に“▶▶” / “◀◀” をタッチします。 <ul style="list-style-type: none">• タッチし続けると、連続してコマ送りします。
情報表示のあり/なしを切り替える	画面をタッチします。
動画をカットする	カットしたい位置で一時停止し、“✂” をタッチします (58ページ)。

• このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。

動画をカットする(ムービーカット)

動画の一部をカット(削除)できます。

1. 再生モードにして、カットしたい動画を再生する
2. カットしたい位置で“||”をタッチして、一時停止する
3. “✂”をタッチする
4. カットしたい範囲をタッチする

 前をカット	最初から選択した場面の前までをカットします。
 後をカット	選択した場面から最後までをカットします。

5. “カット”をタッチする

カットには、しばらく時間がかかります。“処理中です しばらくお待ちください”の表示が消えるまで待ってください。カットする動画が長いときは時間がかかることがあります。

重要

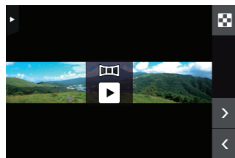
- カット編集すると、元の動画は残りません。一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。

参考

- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- カットしようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けたり、二つの動画の一つにすることはできません。

撮影したパノラマ画像を見る

1. “▶” (再生) をタッチして、再生モードにする
2. “<” “>” をタッチ、または画面を左右にドラッグして、再生したいパノラマ画像を表示させる
 - タッチし続けると、早送りができます。
3. “▶” をタッチして、パノラマ画像を再生する
パノラマ画像が、左右または上下にスクロールして再生されます。



再生中にできること

一時停止／再生する	“ ” / “▶” をタッチします。
再生をやめる	再生中に “■” をタッチします。
表示位置を移動する	一時停止中に画面をドラッグします。
情報表示のあり／なしを切り替える	画面をタッチします。

参考

- パノラマ画像は下記の機能が使用できません。
ムービーカット、回転表示

画像を一覧表示する

複数の画像を一度に表示できます。

1. 再生モードにして、“☐” をタッチする
画像が一覧表示されます。
 - “^” “v” をタッチ、または画面を上下にドラッグすると、前後の画像を表示します。
 - 通常表示 (1枚表示) で見たいときは、見たい画像または “☐” をタッチしてください。
 - 動画は先頭の画像が表示されます。
 - 再生できない画像には “?” が表示されることがあります。



画像を拡大して表示する

静止画やパノラマ画像を8倍まで拡大して表示できます。

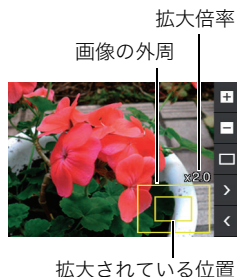
- 画像のサイズによっては、拡大できる倍率が異なる場合があります。

1. 再生モードにして“<”“>”をタッチ、または画面を左右にドラッグして再生したい画像を表示させる

2. 2本の指でタッチしながら指を広げる(15ページ)

画像が拡大表示されます。

- 画面をドラッグして、拡大表示される位置を変えることができます。
- 2本の指でタッチしながら指を狭めると、縮小表示されます(15ページ)。
 - 液晶モニターに情報を表示しているときは、画像の右下に拡大されている位置が表示されます。
- 拡大中に“<”“>”をタッチすると、静止画拡大倍率を保ったまま、次の画像を見ることができます。
- 通常表示(1枚表示)に戻す場合は、“□”をタッチしてください。



テレビで静止画や動画を見る

市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぎます。

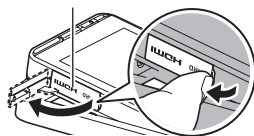
- HDMIケーブル(市販品)は右記のロゴのあるものをお使いください。

HDMI™
HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

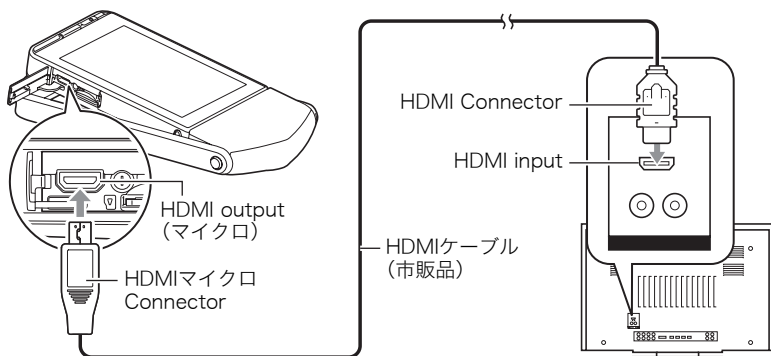
1. フレームを開く(12ページ)

2. 【CARD HDMI】カバーのくぼみに爪を掛けて、矢印の方向に開ける

【CARD HDMI】カバー



3. カメラの電源を切り、市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぐ



- ケーブルの抜き差しは、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。テレビは、テレビの取扱説明書に従って設定をしてから、ケーブルの抜き差しを行ってください。

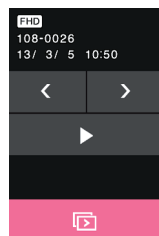
4. テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替える

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、カメラをつないだ映像入力を選んでください。

5. カメラの電源を入れる

カメラの画面にはリモコン画面が、テレビの画面には画像が表示されます。

- リモコン画面の内容は、テレビに表示している画像の種類によって変わります。



6. カメラの画面をタッチして操作する

参考

- カメラ本体側はHDMIマイクロConnector、テレビ側はテレビのHDMI Connectorに合ったHDMIケーブルをご使用ください。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- カメラ本体と接続機器のHDMI output(出力端子)同士での接続は故障の原因となりますので行わないようにしてください。
- HDMI出力を行わない場合は、接続したHDMIケーブルを抜いてください。カメラ本体の表示が正常に動作しない場合があります。
- 音声はモノラルになります。
- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。
- デジタルビデオ信号の形式を変更したい場合は、90ページをご覧ください。

再生時のその他の機能(再生機能)

ここでは再生モードで操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

再生メニューを使う

■ メニュー画面の操作例

1. 再生モードにして“MENU”をタッチする

メニュー画面が表示されます。

- “MENU”が表示されていない場合は、“▶”(しおり)をタッチして表示させてください。
- メニューの内容は、撮影モードと再生モードで異なります。



2. 設定したい項目をタッチする

3. 画面の表示に従って内容を設定する

- “MENU”をタッチすると、メニュー操作を中断し、メニューを消します。

■ メニュー操作の本書記載について

本書ではメニュー操作の手順を下記のように記載します。記載の順にアイコンをタッチしてください。

操作手順: 再生モードにする → MENU → プロテクト

画像をデコレーションする(ペイント)

操作手順: 再生モードにする → 静止画を表示 → MENU → ペイント

撮影した静止画に絵や文字を描いたり、スタンプを押すことができます。元の静止画サイズが3M以上の場合は、作成した画像は3Mで保存されます。

1. 画面右の“”または“”をタッチする

2. 使用したいペンの種類またはスタンプをタッチする

3. 選んだペンで文字や絵を描いたり、スタンプを押す






4. “OK”をタッチする

5. “はい”をタッチする



新しい画像として保存されます。



■ ペイント機能でできること

	画像を保存しないでペイント機能を終了します。
	絵や文字を描くときや消すときに使用するペンの色(消しゴム)と太さを選ぶことができます。
	スタンプの種類を選ぶことができます。
	一つ前の状態に戻ります。
	画像を保存します。

参考

- “”を選んだ場合は、一度にペンの色(消しゴム)または太さのどちらかのみを変更できます。ペンの色と太さの両方を変更したい場合は、再度“”をタッチして変更してください。

自動的にページ送りして楽しむ(スライドショー)

操作手順: 再生モードにする → MENU → スライドショー
すべての画像を自動的にページ送りして表示することができます。

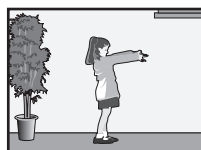
参考

- 画面の切り替わり中は操作できません。
- 本機以外で撮影した画像では、切り替わる間隔が長くなる場合があります。
- 通常表示(1枚表示)に戻す場合は、画面をタッチしてください。

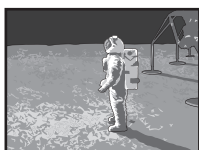
静止画から画像を切り抜く(キャラクター切り抜き)

操作手順: 再生モードにする → 静止画を表示 → MENU → キャラクター切り抜き

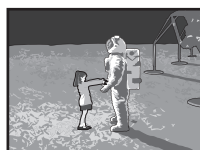
静止画に写っている人物や物などの輪郭をなぞって、切り抜くことができます。切り抜いた画像(キャラクター)は、別の静止画に貼り付けることができます。



切り抜く画像






別の静止画



貼り付けた後の画像

1. 使用する描画モードをタッチし、輪郭をなぞってキャラクターを切り抜く

描画モード	線種	内容
	細い	画像を切り抜く線を描きます。
	太い	
	—	描いた線を消します。


- 線を描くときは、切り抜きたい部分の線の始まりと終わりをつなげてください。

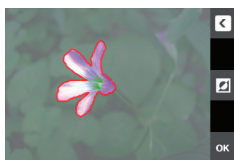
2. “OK”をタッチする

切り抜かれた背景がグレーで表示されます。

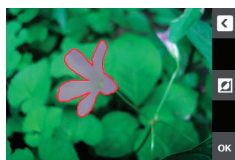
3. “”をタッチして切り抜く領域を選び、“OK”をタッチする

切り抜いた結果が表示されます。

- 画面右上の“”アイコンをタッチすると、一つ前の操作に戻ります。



キャラクターを残す



背景を残す

4. 切り抜く画像を確認して、“OK”をタッチする

切り抜いた画像が保存されます。

参考

- 切り抜いた画像を再度切り抜くことはできません。

キャラクターやフレームを別の静止画に貼り付ける (キャラクター貼り付け)

操作手順: 再生モードにする → MENU → キャラクター貼り付け

本機に内蔵されているキャラクター、フレームや、“キャラクター切り抜き”(63ページ)で作成したキャラクターを静止画に貼り付けることができます。

- 次の条件を満たす画像のみ、背景の画像として使用することができます。
 - 本機で撮影した静止画、または本機に転送した静止画
 - 画像サイズが“4:3”のアスペクト比の静止画

1. “<” “>”をタッチまたは画面を左右にドラッグして背景の画像を選び、“OK”をタッチする

2. “<” “>”をタッチまたは画面を左右にドラッグして貼り付けたいキャラクターを選び、“OK”をタッチする

3. “+”“-”をタッチしてキャラクターの大きさを調整し、キャラクターをドラッグして貼り付ける位置を決める



4. 貼り付けるキャラクターの大きさと位置が決まったら、“OK”をタッチする
キャラクターと別の静止画が合成されます。

参考

- 内蔵されているキャラクターサンプルは、消去やフォーマットを行っても消えません。

ファイルを消去できないようにする(プロテクト)

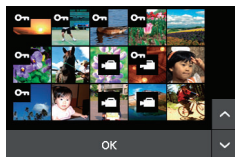
操作手順: 再生モードにする → MENU → プロテクト

撮影した画像を消去できないようにすることができます。

- プロテクトがかかった画像には、“**On**”が表示されます。



全ファイルオン	すべてのファイルにプロテクトをかけます。
全ファイルオフ	すべてのファイルのプロテクトを解除します。
選択	<p>ファイルごとにプロテクトをかけます。</p> <p>① “^” “v”をタッチ、または画面を上下にドラッグしてプロテクトをかけたい画像を表示する</p> <p>② 画像をタッチして“On”を表示させる 手順①、②を繰り返して同時に複数のファイルにプロテクトをかけることができます。</p> <p>③ “OK”をタッチする プロテクトを解除するには、手順②で画像をタッチして“On”を消してください。</p>



重要

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(91ページ)を行うと、消去されてしまいます。

画像を回転させる(回転表示)

操作手順: 再生モードにする → MENU → 回転表示

1. “<” “>”をタッチまたは画面を左右にドラッグして、回転したい画像を表示させる
2. “回転”をタッチする
“回転”をタッチすることにより、90° 左回りに回転します。
3. 希望の表示状態になったら“<”をタッチする

参考

- パノラマ画像は回転できません。
- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。
- プロテクトをかけた画像、拡大表示された画像を回転させることはできません。

画像サイズを小さくする(リサイズ)

操作手順: 再生モードにする → MENU → リサイズ

撮影した静止画のサイズを小さくして、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。リサイズ後の画像は5M/3M/VGAの3種類が選択できます。

1. “<” “>”をタッチまたは画面を左右にドラッグして、リサイズしたい画像を表示させる
2. サイズをタッチする
選んだサイズに画像がリサイズされ、新しい静止画として保存されます。

参考

- “3:2”の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズした静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

静止画の一部を切り抜く(トリミング)

操作手順: 再生モードにする → MENU → トリミング

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。

1. “<” “>”をタッチまたは画面を左右にドラッグして、トリミングしたい画像を表示させる

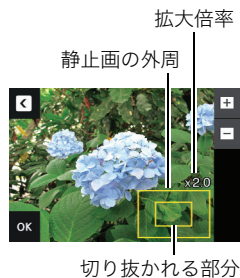
2. “OK”をタッチする

3. 画面をドラッグして切り抜きたい部分を表示させる

- 画像を拡大したい場合は、“+”をタッチまたは2本の指で画面をタッチしながら指を広げてください。画面を縮小したい場合は、“-”をタッチまたは2本の指で画面をタッチしながら指を狭めてください。

4. “OK”をタッチする

画面が切り抜かれて保存されます。



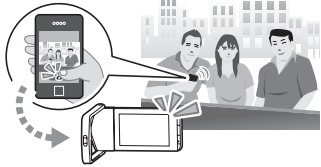
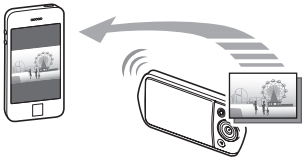
参考

- “3:2”の画像をトリミングすると、画像の横縦比が4:3になります。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

無線LANに接続する

無線LAN機能でできること

スマートフォンをカメラに無線LANで接続すると、次のことができます。

できること	内容	参照ページ
リモート撮影* 	スマートフォンを使用して、離れたところからカメラを操作して撮影できます。	70
クイック送信* 	カメラで静止画を撮影した直後に、その静止画1枚をその場でスマートフォンに送信できます。	72
スマートフォンに送る* 	カメラで撮影した静止画や動画を選んで、スマートフォンに送信できます。	73
スマートフォンから見る 	スマートフォンやパソコンから、カメラに保存されている静止画や動画を見たり、ダウンロードできます。	74

※ 操作には、スマートフォンに専用アプリ“EXILIM Remote”をインストールする必要があります。

重要

- 無線LAN機能は、航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では使用しないでください。

参考

- 無線LANの機能を使用すると、通常よりも消費電力が大きくなります。電池が十分に残っている状態で使用してください。
- 操作可能範囲は、通信環境や接続するスマートフォンの機種によって変わります。

スマートフォンをカメラに接続する

お使いのスマートフォンに専用アプリ“EXILIM Remote”をインストールすると、スマートフォンをカメラのリモコンとして使ったり、撮影した画像をスマートフォンに転送できます。“EXILIM Remote”のインストールや操作方法については、取扱説明書または Exilim remote Webサイト (<http://www.exilim.com/app/>) をご覧ください。

■ アプリの動作保証について

EXILIM Remote(アプリ)は、すべてのスマートフォンまたはタブレットで動作を保証するものではありません。

本製品には電波法に基づく工事設計認証(認証番号:006WWD0257)を受けた特定無線設備を内蔵しています。

お使いのスマートフォンに専用アプリ“EXILIM Remote”をインストールする

■ Android端末の場合(対応OS:Android 2.3.3~4.2)

1. “Google Play”を開く
2. 検索フィールドに“EXILIM Remote”と入力する
3. “EXILIM Remote”をインストールする

■ iPhoneの場合(対応OS:iOS 5.1~6.1)

1. “App Store”を開く
2. 検索フィールドに“EXILIM Remote”と入力する
3. “EXILIM Remote”をインストールする

無線LANの接続設定をする

スマートフォンをカメラに無線LANで接続します。この操作は初回のみ必要になります。

1. カメラを撮影モードにして、リモート撮影アイコン“”をタッチする

- リモート撮影アイコンが表示されていない場合は、“▶”(しおり)をタッチして表示させてください。スマートフォンから接続できる状態になり、SSIDとパスワードが表示されます。



2. スマートフォンのWi-Fiの設定にカメラのSSIDとパスワードを入力する

カメラの液晶モニターに“スマートフォンのアプリを起動してください”というメッセージが表示されたら、スマートフォンがカメラに無線LANで接続された状態になります。

- “キャンセル”をタッチすると、無線LAN接続が解除されます。
- 無線LANで接続するための設定方法は、スマートフォンによって異なります。無線LAN(Wi-Fi)の接続方法については、お使いのスマートフォンの取扱説明書でご確認ください。

スマートフォンをカメラのリモコンとして使う(リモート撮影)

スマートフォンを使用して、離れたところからカメラを操作して撮影できます。スマートフォンからは、静止画や動画の撮影だけでなく、ズームやセルフタイマーなどの操作もできます。

1. カメラを撮影モードにして、リモート撮影アイコン“”をタッチする

- リモート撮影アイコンが表示されていない場合は、“▶”(しおり)をタッチして表示させてください。

2. スマートフォンで、“EXILIM Remote”を起動する

スマートフォンがカメラに接続されます。

- スマートフォンがカメラに接続されると、約60秒後にカメラの液晶モニターの表示が消え、後面ランプが緑色に点灯します。
- “スマートフォンで以下のアクセスポイントに接続してください”というメッセージが消えない場合は、スマートフォンのWi-Fi設定で本機を選んでください(70ページ)。

3. スマートフォンで撮影範囲を確認しながら撮影する

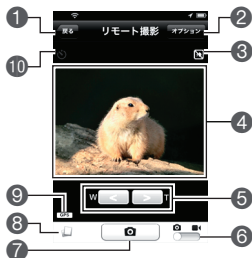
- リモート撮影を終了する場合は、カメラの“終了”をタッチする、またはアプリを終了してください。

重要

- リモート撮影時の静止画撮影のモードは、自動的にプレミアムオート PROになります (BEST SHOTなどほかの撮影モードでは撮影できません)。
- リモート撮影で動画を撮影した場合の動画画質は、STD(640×480)になります。

■ スマートフォンでできること

リモート撮影中は、“EXILIM Remote”で以下の操作ができます。本書では、iPhoneの画面を使用して説明します。お使いのスマートフォンによって、操作が一部異なります。



- 1 リモート撮影を終了します。
- 2 静止画を撮影する場合、セルフタイマーとLEDライトを設定します。
リモート撮影時のセルフタイマーは、10秒に固定されています。
- 3 LEDライトの設定状態が表示されます。
- 4 撮影範囲を確認できます。
- 5 ズームします。
- 6 静止画撮影と動画撮影を切り替えます。
- 7 画像を撮影します。
- 8 直前に撮影した静止画1枚をスマートフォンに送信します。
- 9 位置情報の設定状態が表示されます。
- 10 セルフタイマーの設定状態が表示されます。

位置情報について

リモート撮影で静止画を撮影し、**8**を使用してスマートフォンに送信した静止画に、位置情報を付けることができます。Android端末の場合は、リモート撮影画面の**2**“オプション”で、iPhoneの場合は“設定”→“プライバシー”→“位置情報サービス”で設定します。

重要

- 位置情報サービスを使用すると、撮影日時や位置情報などが静止画に含まれるため個人を特定されることがあります。ウェブサービスなどで画像を公開する場合はご注意ください。

カメラで撮影した静止画をその場でスマートフォンに送る (クイック送信)

カメラで静止画を撮影した直後に、その静止画1枚をその場でスマートフォンに送信できます。

- 静止画を撮影したあとに以下の操作をすると、クイック送信機能で静止画を送信できません。
 - 電源を切ったり、再生モードに切り替えた場合
 - カメラをリセット(91ページ)またはフォーマット(91ページ)した場合
 - リモート撮影機能を使用した場合
 - 動画を撮影した場合

1. カメラを撮影モードにして、静止画を撮影する

2. クイック送信アイコン“”をタッチする

3. “送信”をタッチする

4. スマートフォンで“EXILIM Remote”を起動する

スマートフォンがカメラに接続され、撮影した静止画がスマートフォンに送信されます。

- “スマートフォンで以下のアクセスポイントに接続してください”というメッセージが消えない場合は、スマートフォンのWi-Fi設定で本機を選んでください(70ページ)。

5. 画像の送信が完了したら、スマートフォン側で“OK”をタップする

画像の送信が完了すると、スマートフォンとカメラの接続が自動で解除されます。


参考

- 送信する静止画の画像サイズは、“送信時リサイズ”(74ページ)で設定できます。
- スマートフォンで受け取った画像は以下で確認できます。
 - iPhone: “写真”アプリの“カメラロール”
 - Android端末: “ギャラリー”などの写真閲覧アプリ


カメラで撮影した画像を選んでスマートフォンに送る (スマートフォンへ送る)

カメラで撮影した静止画や動画を選んでスマートフォンに送信できます。一度に送信できるファイルは100枚、または合計容量が500MBまでです。

1. カメラの“▶” (再生) をタッチして、再生モードにする

2. 画像通信アイコン“”をタッチする

- 画像通信アイコンが表示されていない場合は、“▶” (しおり) をタッチして表示させてください。

3. “” (スマートフォンへ送る) をタッチする

4. スマートフォンに送りたい画像をタッチする

タッチした画像にチェックマークが付きます。

5. スマートフォンに送りたい画像をすべて選んだら、“OK” をタッチする

6. スマートフォンで、“EXILIM Remote” を起動する

スマートフォンがカメラに接続され、選んだ画像がスマートフォンに送信されます。

- “スマートフォンで以下のアクセスポイントに接続してください” というメッセージが消えない場合は、スマートフォンのWi-Fi設定を確認してください(70ページ)。

7. 画像の送信が完了したら、スマートフォン側で“OK” をタップする

画像の送信が完了すると、スマートフォンとカメラの接続が自動で解除されます。

重要

- お使いの機種によっては動画が再生できないことがあります。
- お使いの機種、OSのバージョン、ストレージの空き状況によって、動画や静止画が保存されないことがあります。送信後には、お使いの機器で保存されていることを確認してください。
- Android端末で受取った動画を見るには：
ギャラリーには動画は表示されません。動画は“EXILIM Remote” フォルダーに保存されます。再生には、動画(拡張子がMOVの動画ファイル)が再生できる動画プレーヤーが別途必要です。お使いの動画プレーヤーによっては、動画が再生できなかったり、音声が出ないことがあります。

参考

- 送信する静止画の画像サイズは、“送信時リサイズ”(74ページ)で設定できます。
- スマートフォンで受け取った画像は以下で確認できます。
 - iPhone: “写真” アプリの“カメラロール”
 - Android端末: “ギャラリー” などの写真閲覧アプリ

静止画をリサイズしてスマートフォンに送信する (送信時リサイズ)

操作手順: MENU → セットアップ → 送信時リサイズ

“クイック送信”または“リモート撮影”で直前に撮影した画像をスマートフォンに送信する、または“スマートフォンへ送る”を使用して画像を送信するときにリサイズできます。

オリジナル	撮影時の画像サイズで送信されます。
3M	3Mにリサイズされて送信されます。 • 3M以下の画像の場合は、撮影時のサイズで送信されます。

カメラで撮影した画像をスマートフォンで見る (スマートフォンから見る)

最大8台のスマートフォンやパソコンのブラウザから、カメラに保存されている静止画や動画を見たり、ダウンロードできます。この機能は、専用アプリ“EXILIM Remote”がスマートフォンにインストールされていない状態でも使用できます。

1. カメラの“▶”(再生)をタッチして、再生モードにする

2. 画像通信アイコン“📷”をタッチする

- 画像通信アイコンが表示されていない場合は、“▶”(しおり)をタッチして表示させてください。

3. “📱”(スマートフォンから見る)をタッチする

スマートフォンがカメラに接続され、URLが表示されます。

- “スマートフォンで以下のアクセスポイントに接続してください”というメッセージが消えない場合は、スマートフォンのWi-Fi設定で本機を選んでください(70ページ)。
- 約60秒後にカメラの液晶モニターの表示が消えます。カメラの液晶モニターをタッチすると、表示が戻ります。

4. スマートフォンのブラウザアプリを起動する

- カメラに表示されたURLに自動でアクセスし、カメラに保存されている画像が表示されます。
- カメラの画像が自動で表示されない場合は、スマートフォンのブラウザにURLを直接入力してください。
- 無線LAN機能を終了するには、カメラ側で“終了”をタッチしてください。

重要

- お使いの機種によっては動画が再生できないことがあります。

参考

- パソコンの無線LANを設定してカメラと接続すると、パソコンのブラウザでカメラに保存されている画像を見ることもできます。



プリント(印刷)する

お店で プリントする

画像が入ったメモリーカードを、**プリントサービスのお店**に持参してプリントします。



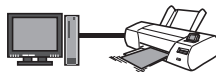
プリンターで プリントする

プリンターのスロットにメモリーカードを直接セットしてプリントできます。詳しくは、プリンターに付属の説明書に従って操作してください。



パソコンを使って プリントする

画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。



パソコンを使って印刷する

パソコンに保存した画像を印刷する方法はさまざまですが、ここでは、一般的な印刷方法を説明します。

■ Windowsの場合

1. 「画像をパソコンに保存する／パソコンで見る」(78ページ)に従って、画像をパソコンに保存して、印刷したい画像を表示する

2. Windows XP: “ファイル” → “印刷” の順でクリックする
Windows 8/Windows 7/Windows Vista: “印刷” → “印刷” の順でクリックする

3. 印刷内容を設定して、印刷する

Windows XP: 印刷ウィザードが表示されます。画面に従って印刷内容を設定して印刷してください。

Windows 8/Windows 7/Windows Vista: 印刷内容を設定し、“印刷”をクリックしてください。

■ Macintoshの場合

1. 「画像をパソコンに保存する／パソコンで見る」(82ページ)に従って、画像をパソコンに保存して、印刷したい画像を表示する

2. “ファイル” → “プリント” の順でクリックする



3. 印刷内容を設定して、“プリント”をクリックする

選択した画像が印刷されます。

パソコンを利用する

パソコンを使ってできること

カメラをパソコンに接続して、次のことができます。

パソコンに画像を保存して見る 	<ul style="list-style-type: none">• 手動でパソコンに保存して見ることができません (USB接続) (78、82ページ)。
動画を再生・編集する 	<ul style="list-style-type: none">• 動画を再生することができます (81、83ページ)。• 動画を編集する場合は、必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。

操作のしかたは、Windowsパソコンの場合とMacintoshの場合で異なります。

- Windowsパソコンの場合→「Windowsパソコンを利用する」(77ページ)
- Macintoshの場合→「Macintoshを利用する」(81ページ)

Windowsパソコンを利用する

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	Windows 8/ Windows 7/ Windows Vista/ Windows XP(SP3)	インストールする必要はありません。	78
動画の再生	Windows 8/ Windows 7/ Windows Vista/ Windows XP(SP3)	QuickTime 7で再生することができます。 • 必要に応じて、ダウンロードしてご利用ください。	81

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

カメラをパソコンに接続して、画像(静止画や動画などのファイル)をパソコンに保存したり、パソコンで見ることができます。

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。

画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

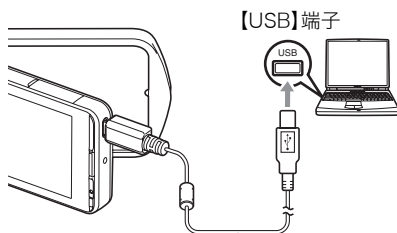
参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を切り、付属のマイクロUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、19ページをご覧ください。



マイクロUSBケーブル(付属品)

2. カメラの電源を入れる

- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

3. Windows 8: “デスクトップ” → “エクスプローラー”の順でクリックする

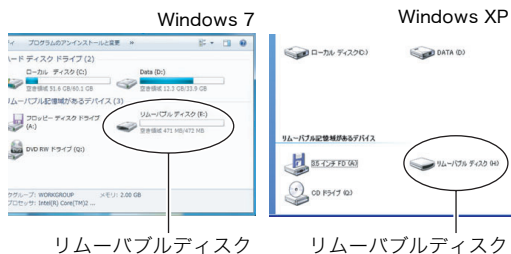
Windows 7/Windows Vista: “スタート” → “コンピューター”の順でクリックする

Windows XP: “スタート” → “マイコンピュータ”の順でクリックする

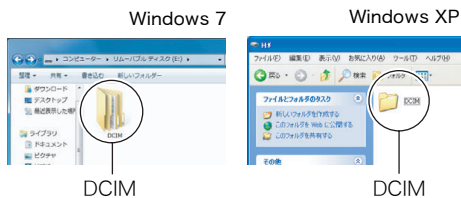


4. “リムーバブルディスク”をダブルクリックする

- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。



5. “DCIM”フォルダを右ボタンでクリックする



6. メニューの“コピー”をクリックする

7. Windows 8: “ドキュメント”をクリックする

Windows 7/Windows Vista: “スタート” → “ドキュメント”の順でクリックする

Windows XP: “スタート” → “マイドキュメント”の順でクリックする

- すでに“DCIM”フォルダが保存されている場合は、上書きされてしまいます。すでに保存されている“DCIM”フォルダの名前を変えるなどしてからコピーしてください。

-
- 8.** Windows 8: “ドキュメント”メニューで、“ホーム”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows 7: “ドキュメント”メニューで、“整理”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows Vista: “ドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows XP: “マイドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする
- “DCIM”フォルダ(画像ファイルが保存されているフォルダ)が“ドキュメント”(Windows 8/Windows 7/Windows Vista)または“マイドキュメント”(Windows XP)フォルダにコピーされ、画像も一緒にパソコンに保存されます。
-

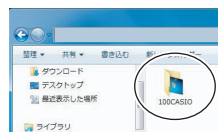
- 9.** コピーが終了したらカメラをパソコンからはずす
カメラの【**⏻**】(電源)を押して電源を切り、後面ランプが消灯もしくは赤く点灯しているのを確認し、USBケーブルをはずしてください。

■ パソコンに保存した画像を見る

- 1.** コピーした“DCIM”フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く



- 2.** 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く



- 3.** 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(85ページ)を参照ください。



動画を再生する

パソコンに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。ご使用のOSによっては再生できない場合があります。その際は別途ソフトをインストールする必要があります。

- 動画が再生できない場合は、下記アドレスからQuickTime 7をダウンロードし、パソコンにインストールして再生してください。

<http://www.apple.com/jp/quicktime/download/>

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS : Windows 8/Windows 7/Windows Vista/Windows XP (SP3)

CPU : 画質Full HD、HDの場合:Core 2 Duo 3.0GHz以上

画質HS240の場合:Pentium 4 2.0GHz以上

必要なソフトウェア:QuickTime 7

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生のご注意

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。
- お使いのパソコンの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は以下をお試しください。
 - 開いている他のソフトウェアを閉じたり、常駐ソフトを止める。

Macintoshを利用する

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	OS X	インストールする必要はありません。	82
パソコンに自動的に画像を保存/画像の管理	OS X	一部のMac製品本体に付属のiPhotoが利用できます。	—
動画の再生	OS X	OSにバンドルされているQuickTimeで再生できます。	83

画像をパソコンに保存する/パソコンで見る

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。

画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。
- Mac OS Xの10.0ではご使用できません。10.1、10.2、10.3、10.4、10.5、10.6、10.7、10.8のみで使用できます(OS標準のUSBドライバを使用)。

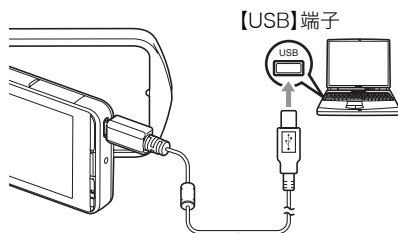
参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を切り、付属のマイクロUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、19ページをご覧ください。



マイクロUSBケーブル(付属品)

2. カメラの電源を入れる

- カメラの後面ランプが緑色またはオレンジ色に点灯します。パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。
- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

3. 表示されたドライブをダブルクリックする

パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。



-
4. “DCIM”フォルダをデスクトップにドラッグアンドドロップして、画像をパソコンにコピーする

 5. コピーが終了したらドライブを“取り出し”または“ゴミ箱”へドラッグアンドドロップする

 6. カメラをパソコンからはずす
カメラの【⏻】(電源)を押して電源を切り、後面ランプが消灯もしくは赤く点灯しているのを確認し、USBケーブルをはずしてください。

■ パソコンに保存した画像を見る

1. 表示されたドライブをダブルクリックする

2. “DCIM”フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く

3. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く

4. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる
 - ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(85ページ)を参照ください。
 - カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。

■ 動画を再生する

動画はMacintoshにすでにインストールされているQuickTimeで再生することができます。Macintoshに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS : 画質Full HDの場合: Mac OS X 10.4.11以降
画質HD、HS240の場合: Mac OS X 10.3.9以降

必要なソフトウェア: QuickTime 7以降

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生時のご注意

お使いのMacintoshの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は、以下をお試しください。

- 最新のQuickTimeにバージョンアップする
- 実行中の他のソフトウェアを終了する

重要

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。

ファイルとフォルダについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。各ファイルは、「フォルダ」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。ファイル、フォルダには、区別のための名前が自動的に付きます。

- フォルダ構造の詳細は、「メモリー内のフォルダ構造」(85ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	“CIMG0001”から“CIMG9999”までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。	26番目に記録した ファイル名： CIMG0026.JPG └─┬─┘ 連番(4桁) 拡張子
フォルダ	“100CASIO”から“999CASIO”までで、最大900のフォルダが作成されます。	連番100のフォルダ名： 100CASIO └─┘ 連番(3桁)

- フォルダ名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、9ページをご覧ください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。

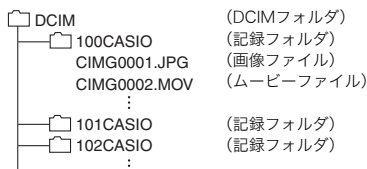
メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像は、DCF (Design rule for Camera File system) 規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。

■ DCF規格について

- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見ることができます。
 - 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のプリンターで印刷することができます。
 - DCF規格対応の他社のカメラの画像を本機で見ることができます。
- ただし、上記項目の動作はすべて保証するものではありません。

■ メモリー内のフォルダ構造



■ このカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

- メモリーの内容をパソコンに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存してください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンに保存したファイルをカメラに戻す場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻しておいてください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。
- フォルダやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダ構造が85ページのフォルダ構造のとおりである必要があります。

その他の設定について

ここでは撮影モードと再生モードのどちらでも操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

メニューの操作については、48ページをご覧ください。

液晶モニターの明るさを変える(液晶設定)

操作手順: MENU → セットアップ → 液晶設定

液晶モニターの明るさを切り替えることができます。

オート	周囲の環境を判断して、明るい環境下では自動的に液晶が明るくなります。
+2	“+1”に比べてさらに液晶が明るくなり、見やすくなります。反面、消費電力が大きくなります。
+1	屋外などの明るい場所で使用する場合の設定です。“0”に比べて液晶が明るくなり、見やすくなります。
0	屋内などの明るすぎない場所で使用する場合の設定です。
-1	周囲へのマナーに配慮したり、暗い場所で使用する場合の設定です。

カメラの向きに合わせて画面表示の向きを切り替える (画面自動回転)

操作手順: MENU → セットアップ → 画面自動回転

“入”にすると、カメラの向きに合わせて、アイコンや撮影される画像の向きが自動で変わります。

静止画をリサイズしてスマートフォンに送信する (送信時リサイズ)

操作手順: MENU → セットアップ → 送信時リサイズ

詳しくは74ページをご覧ください。

カメラの音を設定する(操作音)

操作手順: MENU → セットアップ → 操作音

起動音		操作音の入/切を設定します。
ハーフシャッター		
シャッター		
操作音		
音量	操作音量	操作音量を設定します。HDMI出力時(60ページ)の音量にも反映されます。
	再生音量	動画の再生音量を設定します。HDMI出力時(60ページ)の音量にも反映されます。

- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

操作手順: MENU → セットアップ → タイムスタンプ

撮影時に静止画の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

例) 2015年7月10日 午後1時25分

日付	2015/7/10
日付+時刻	2015/7/10 1:25pm
切	日付/時刻は写し込まれません。

- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消したりすることはできません。
- タイムスタンプ機能を使用しなくても、印刷用ソフトで日付や時刻を入れてプリントすることができます。

- 写し込む内容は、日時設定(89ページ)と表示スタイルの設定(89ページ)に従って写し込みます。

海外旅行先での時刻を設定する(ワールドタイム)

操作手順: MENU → セットアップ → ワールドタイム

海外旅行先を設定する

自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

1. “訪問先”をタッチする

- 通常の時刻表示の地域・都市を変更するときは“自宅”を選びます。

2. “都市”をタッチする

- サマータイムを設定するときは、“サマータイム”を選び、“入”に設定します(サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです)。

3. 画面を上下にドラッグして訪問先のエリアを表示して、“OK”をタッチする

4. 画面を上下にドラッグして都市を選び、タッチする

重要

- ワールドタイムを設定する前に、自宅の都市が自分の住んでいる地域になっているかどうかを確認してください。自分の住んでいる地域になっていない場合は、手順1で“自宅”を選んで自宅の都市を変更し、続けて日時を設定し直してください(89ページ)。

表示する時刻を選ぶ

カメラに表示する時刻を自宅または訪問先に設定します。

1. “時刻表示”をタッチする

2. “自宅”または“訪問先”をタッチする

- タッチした地域の時刻に設定されます。

カメラの日時を設定し直す(日時設定)

操作手順: MENU → セットアップ → 日時設定

日時を変更できます。

1. 変更したい値(年、月、日、時、分)をタッチする

2. “▲”“▼”をタッチして、日時を合わせる

- 入力できる日付は、2001年～2049年です。
- 日時を設定する前にワールドタイムの自宅の設定(88ページ)を自分の住んでいる地域にしないと、ワールドタイムの日時が正しく表示されません。
- 12時間/24時間表示を切り替えるには、時間表示切替アイコンをタッチします。
- “▲”“▼”をタッチし続けると、早送りできます。



時間表示切替

3. “OK”をタッチする

日付の表示の並びを変える(表示スタイル)

操作手順: MENU → セットアップ → 表示スタイル

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

例) 2015年7月10日

年/月/日	15/7/10
日/月/年	10/7/15
月/日/年	7/10/15

表示言語を切り替える(Language)

操作手順: MENU → セットアップ(Setup) → Language

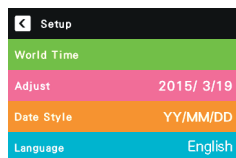
画面のメッセージの言語を設定します。

■ 画面が外国語表示になってしまったとき

1. メニュー画面の“Setup”をタッチする

2. “Language”をタッチする

3. 画面を上下にドラッグして“日本語”を表示させ、タッチする



HDMI端子の出力方法を変える(HDMI)

操作手順: MENU → セットアップ → HDMI

HDMIケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号の形式を変更できます。

オート	接続したテレビに合った形式に自動的に切り替わります。 通常はこの設定でご使用ください。
1080i	1080i形式で出力します。*
480p	480p形式で出力します。
576p	576p形式で出力します。

※1080iは、1080 60iに対応しています
が、1080 50iには対応していません。
そのため、1080iの60iに対応していない
PAL受信地域でのデジタルTVをご使用
の際には、576p出力となる場合があり
ます。PAL受信地域で、オートで表示さ
れない場合は、576pに設定を変更して
ください。

- “オート”でテレビに表示されない場合には、テレビに合わせて他の設定に変更してください。

無線LAN接続するときのカメラのパスワードを変更する (無線LANパスワード)

操作手順: MENU → セットアップ → 無線LANパスワード

カメラにスマートフォンを無線LANで接続するとき使用するパスワードを変更できます。

1. 変更したい値をタッチする
2. “▲”“▼”をタッチして、値を変更する
3. 設定が完了したら、“OK”をタッチする

参考

- 無線LANパスワードを変更した場合は、スマートフォンのWi-Fi設定も変更してください。
 - iPhone:
Wi-Fiの設定のカメラのSSIDを表示している欄の右矢印をタップし、ネットワークの設定を削除してください。削除後、再びカメラのSSIDを選択して、新しいパスワードを入力してください。
 - Android端末:
Wi-Fiの設定のカメラのSSIDを表示している欄をタッチし、いったん、切断を選択してください。再びカメラのSSIDを選択して、新しいパスワードを入力してください。

電源を入れたときに起動画面を表示する(起動画面)

操作手順: MENU → セットアップ → 起動画面

“入”にすると、カメラの電源を入れたときに、カメラに内蔵されている起動画面が表示されます。

メモリーをフォーマットする(フォーマット)

操作手順: MENU → セットアップ → フォーマット

カメラにメモリーカードが入っている場合はメモリーカードを、メモリーカードが入っていない場合は内蔵メモリーをフォーマットできます。

- フォーマットすると、メモリーの内容がすべて消去され、元に戻すことはできません。本
当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 内蔵メモリーやメモリーカードをフォーマットした場合、フォーマットしたメモリー内
のプロテクトされた画像も同時に消去されます。
- フォーマットするときは、電池残量が十分にあることを確認してください。フォーマッ
ト中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐
れがあります。

各種設定を購入直後の設定に戻す(リセット)

操作手順: MENU → セットアップ → リセット

購入直後の設定(初期値)については、98ページを参照ください。

下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません。

ワールドタイムの詳細設定、日時設定、表示スタイル、Language、無線LANパスワード

使用上のご注意

■ データエラーのご注意

本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。

- カメラの動作中にメモリーカードを抜いた
- 電源を切ったときに後面ランプが緑色に点滅している状態でメモリーカードを抜いた
- 通信中にUSBケーブルがはずれた
- 充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けた
 - 充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けると、カメラが故障する場合があります。すみやかに新しい電池に交換してください。
- その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります(102ページ)。メッセージに対応した処置をしてください。

■ 使用環境について

- 使用可能温度範囲:0~40°C
- 使用可能湿度範囲:10~85%(結露しないこと)
- 次のような場所には置かないでください。
 - 直射日光の当たる場所、湿気やホコリ、砂の多い場所
 - 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
 - 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付き(結露)、故障の原因となります。結露を防ぐには、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に十分慣らしてから取り出して、数時間放置してください。

■ レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズの特長(歪曲収差)により、撮影した画像の直線が歪む(曲がる)場合がありますが、故障ではありません。

■ カメラのお手入れについて

- レンズ面には触れないでください。レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、プロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

■ 充電式電池の取り扱いについて(リサイクルのお願い)



Li-ion 00

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

＜最寄りのリサイクル協力店へ＞

詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

・ ホームページ <http://www.jbrc.com/>

■ 使用済み電池の取り扱い注意事項

- ・ プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- ・ 被覆をはがさないでください。
- ・ 分解しないでください。

■ 無線LAN機能の使用上のご注意

- ・ この製品は、無線を利用しているためまわりの機器に影響を与えたり、影響を及ぼされる可能性があります。
- ・ 本機は米国輸出規制(EAR)の対象となり、米国禁輸出国への輸出はできません。

使用周波数について

本機は2.4GHz帯周波数を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。

他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に留意してご使用ください。

本機は小電力データ通信システムの無線装置を内蔵しております。

使用している周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

- ・ 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- ・ 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の使用を停止してください。
- ・ その他、電波干渉が発生した場合などお困りのことが起きたときは、別冊「クイックスタートガイド」の「お客様相談窓口」に記載されている連絡先までお問い合わせください。

周波数の見方について

2.4DS/OF2

この無線機は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS及びOFDM方式を採用し、与干渉距離は20mです。

電波転送の傍受について

電波によるデータの送受信は第三者に傍受される可能性があります。あらかじめご了承ください。

不正アクセスについて

紛失や盗難などによって本機に搭載されている接続先への不正アクセスや利用などが行われ、被害や損害が発生しても、弊社では一切の責任を負いかねます。

無線LAN機器としての利用について

本製品の無線LAN機能は、この取扱説明書に記載している範囲内でお使いください。それ以外の用途で使用して損害が生じた場合、当社は一切の責任を負いかねます。

磁場・静電気・電波障害について

電子レンジ付近など磁場、静電気、電波障害が発生するところでは本製品を使用しないでください。環境により電波が届かないことがあります。

また、2.4GHz帯の電波を使用しているものの近くで使用すると双方の処理速度が落ちる場合があります。

公衆LANへの接続に関して

本機は公衆無線LAN環境を経由して無線LAN接続することはできません。

仕向地について

本機の無線LAN機能は、日本での利用を前提としています。日本国外での使用は、その国の電波関連規格等に違反するおそれがあり、当社は一切の責任を負いかねます。

■ その他の注意

使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

■ 著作権について

カメラで記録した静止画や動画は、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。ただし、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず、権利者の許可なく、ネット上のホームページや共有サイトなどに掲載したり、第三者に配布したりすることも著作権法や国際条約で固く禁じられています。たとえば、録画したTV番組やライブコンサートの映像、音楽ビデオなど自分で撮影や録画したものであっても、動画共有サイトなどに掲載したり配付したりすると、他者の権利を侵害する恐れがあります。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。なお、本文中には、™マーク、®マークを明記していません。

- microSDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows 7、およびWindows 8は、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime、iPhoto、およびiPhoneは、Apple Inc.の商標です。
- iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。
- AndroidおよびGoogle PlayはGoogle Inc.の登録商標または商標です。
- App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
- iOSは米国シスコの商標もしくは登録商標です。
- Wi-FiはWi-Fi Allianceの登録商標です。
- EXILIMおよびEXILIM Remoteは、カシオ計算機(株)の登録商標または商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

本製品に弊社が提供しているソフトウェアを、無断で営業目的で複製(コピー)したり、頒布したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。

電源について

充電について

■ 充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは

充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは、以下のいずれかの場合により充電できないことを示しています。説明に従って処置したあとに、再度充電してください。

周辺温度または電池の温度が、高温または低温状態である場合

USBケーブルを抜いて常温でしばらく放置したあと、周囲の温度が15℃～35℃の温度範囲で充電を再開してください。

タイマーが動いた場合

電池の未使用期間が長期化した場合や、パソコンの種類や接続環境によっては充電時間が延びる場合があります。充電時間が最大5時間を超えると、タイマーが動き、フル充電でない場合でも充電を停止します。

また、電池の未使用期間が更に長期化した場合は約60分で充電を停止することもあります。

1) 長期間充電しなかった場合

USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開してください。

2) パソコンで充電する際、接続環境によって十分な電力を供給できない場合

USB2.0準拠のUSB端子からのみ充電できます。500mA程度の電流供給ができるUSBポートに直接差し込んでください。

パソコンの給電能力については、ご使用のパソコンのメーカーにお問い合わせください。USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開することもできますが、給電能力が低いパソコンの場合は、この動作を繰り返さないとフル充電にならない場合があります。

上記の処置をしてもエラーが起こる、または5時間を超えても充電が終了しない場合は、電池の不良が考えられます。別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

電池に関するご注意

■ 使用上のご注意

- 寒い場所では、電池の特性上、十分に充電されていても、使用時間が短くなります。
- 15°C～35°Cの温度範囲で充電してください。範囲外の温度では、充電時間が長くなったり、十分な充電ができないことがあります。
- 電池の外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の性能寿命と思われるので、新しいものをお買い求めください。なお、古い電池は使用せずに充電式電池リサイクル協力店へお持ちください(93ページ)。

■ 保管上のご注意

- 充電された状態で長期間保管すると電池の特性が劣化することがあります。しばらく使わない場合は、使い切った状態で保管してください。
- 使用しないときは必ず電池をカメラから取りはずしてください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、カメラが壊れたりします。
- 乾燥した涼しい場所(20°C以下)で保管してください。
- 過放電を防止するために、電池は半年に1回くらいの割合で一度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。

海外で使うときは

■ 使用上のご注意

- 付属のUSB-ACアダプター(AD-C54UJ)はAC100V～240V、50/60Hzの電源に対応していますが、使用する国・地域によってUSB-ACアダプターのプラグ形状等が異なるため、あらかじめ旅行代理店などにお問い合わせください。
- USB-ACアダプターの電源に、電圧変換器等はご使用にならないでください。故障の原因となります。

■ 予備の電池について

- 旅先で電池が切れて撮影ができなくなってしまうことを防ぐため、フルに充電した予備の電池(NP-150)をお持ちになることをおすすめします。
- 電池はお買い求めの販売店またはカシオ・オンラインショッピングサイト(e-カシオ)でご購入ください(e-カシオ：<http://www.e-casio.co.jp/>)。

メモリーカードについて

使用できるメモリーカード、メモリーカードの入れ方については23ページをご覧ください。

■ メモリーカードについて

- 画像を再生したときに異常が発生した場合などは、フォーマット操作(91ページ)で復帰できますが、外出先などでこの操作ができない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちになることをおすすめします。
- メモリーカードは撮影/消去を繰り返すとデータ処理能力が落ちてくるので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
- 静電気、電氣的ノイズ等により、記録したデータが消失または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア(CD-R、CD-RW、ハードディスクなど)にバックアップして控えをとることをおすすめします。

■ メモリーカードのご使用上の注意

- メモリーカードの種類によっては、処理速度が遅くなる場合がありますので、できるだけ超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。ただし、超高速タイプのメモリーカードであっても、すべての動作を保証することはできません。動画の画質設定によっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、ムービーアイコンが黄色になります。
- 当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。詳しくは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」(<http://casio.jp/support/dc/>)をご覧くださいか、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

■ メモリーカードやカメラ本体を廃棄/譲渡するときのご注意

本機の「フォーマット」や「消去」機能では、メモリーカード内のファイル管理情報だけが変更され、データそのものが変更されないことがあります。メモリーカード内のデータは、お客様の責任において管理してください。たとえば以下のような手法をおすすめします。

- 廃棄の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。
- 譲渡の際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。

また、内蔵メモリーのデータは「フォーマット」機能(91ページ)で完全に消去してからカメラ本体を廃棄・譲渡することをおすすめします。

リセット操作でリセットされる内容

撮影モード、再生モードで表示されるメニューで、リセット操作(91ページ)でリセットされる(初期値になる)内容の一覧表です。

—:この記号の設定項目はリセット操作には影響がありません。

重要

- 撮影モードによって使用できないメニュー項目があります。

■ 撮影メニュー

タッチシャッター	切	ホワイトバランス	オート
セルフタイマー	切	ISO感度	オート
LEDライト	切	フォーカス方式	AF
静止画サイズ	12M	撮影レビュー	タイプ2
動画画質	Full HD	自分撮りチェック	切
EVシフト	0.0	セットアップ	→98ページ

■ 再生メニュー


ペイント	—	プロテクト	—
スライドショー	—	回転表示	—
キャラクター 切り抜き	—	リサイズ	—
キャラクター 貼り付け	—	トリミング	—
		セットアップ	→98ページ


■ セットアップメニュー

液晶設定	オート	日時設定	—
画面自動回転	入	表示スタイル	—
送信時リサイズ	3M	Language	—
操作音	起動音:入	HDMI	オート
	ハーフシャッター:入	無線LAN	—
	シャッター:入	パスワード	—
	操作音:入	起動画面	切
	操作音量:3	フォーマット	—
	再生音量:7	リセット	—
タイムスタンプ	切	バージョン情報	—
ワールドタイム	—		

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

現象	考えられる原因と対処
電源について	
電源が入らない。	1) お買い上げ直後は電池は充電されていません。充電してからご使用ください。 2) 本機の電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(16ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の性能寿命です。別売の当社のリチウムイオン充電電池(NP-150)をお買い求めください。
電源が勝手に切れた。	1) 本機は、電源を入れたまま5分間使用しないと自動で電源が切れます。電源を入れ直してください。 2) 本機の電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(16ページ)。 3) カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
電源が切れない。ボタンを押しても、カメラが動作しない。	カメラから電池をいったん取り出し、入れ直してください。
充電について	
後面ランプが赤く点灯せず、充電できない。	1) カメラに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてください。 2) カメラから電池をいったん取り出し、入れ直してください(16ページ)。
撮影について	
シャッターを押しても撮影できない。	1) 再生モードになっている場合は、「  」(撮影)をタッチして撮影モードにしてください。 2) 「メモリがいっぱいです」と表示されている場合は、パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。
オートフォーカスなのにピントが合わない。	1) レンズが汚れている場合は、レンズの汚れを取ってください。 2) 被写体がフォーカスフレームの中央にありません。 3) 手ブレしている可能性があります。ベストショットの「HS手ブレ補正」で撮影するか、カメラを置くなどして固定させて撮影してください。 4) シャッターを半押しせずに撮影したとき、ピントが合わない場合があります。シャッターの半押しを確実に行ってピントを合わせてください。
撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない可能性があります。ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを合わせて撮影してください。
LEDライトが発光しない。	1) 本機の電池が消耗している場合は、充電してください(16ページ)。 2) ベストショット、HDRアートで撮影する場合は、LEDライトが「切」になります。他の撮影モードを選んでください(32ページ)。
セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	本機の電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(16ページ)。
液晶モニターに表示される画像のピントがあまい。	1) 被写体が風景や人物なのに「マクロ」になっています。風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスにしてください(54ページ)。 2) 接写しているのに、オートフォーカスや「無限遠」になっています。接写撮影をする場合は「マクロ」にしてください(54ページ)。

現象	考えられる原因と対処
画像にノイズが入る。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 被写体が暗いとカメラの感度が自動的に上がるため、ノイズが発生する場合があります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 2) 静止画撮影で高い値のISO感度に設定すると、ノイズが増えることがあります。ノイズが気になる場合は、ISO感度を低い値に設定してください。
撮影したのに画像が保存されていない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 記録が終了する前に電池切れになった場合、画像は保存されません。電池残量表示が「」になったら、速やかに電池を充電してください(16ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた場合、画像は保存されません。記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。
風景が明るいのに人物の顔が暗くなってしまった。	人物が光量不足です。EVシフトを+側に調整してください(52ページ)。
夜景がきれいに撮影できない。	ベストショット(42ページ)のシーンを“HS夜景”に設定して撮影してください。
海岸やスキー場で撮影すると被写体が暗くなる。	海岸や雪面からの強い光の反射に露出が合っているため、露出不足になっています。EVシフトを+側に調整してください(52ページ)。
動画撮影中に画像がぼける。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 撮影範囲外のためピントが合っていません。撮影範囲内で撮影してください。 2) レンズが汚れている可能性があります。清掃してください(92ページ)。 3) ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押ししてピントを合わせてから撮影してください。
再生について	
再生した画像の色が撮影時に液晶モニターで見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている可能性があります。直接光がレンズに当たらないようにしてください。
画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のカメラで撮影したメモリーカードを使用した場合は、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
画像を回転できない。	<p>次の画像は回転できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パノラマ画像 • 他のカメラで撮影した画像 • 切り抜いた画像
消去について	
ファイルを消去することができない。	ファイルにプロテクトがかかっている可能性があります。プロテクトを解除してください(65ページ)。
無線LAN機能について	
無線LANに接続できない。 接続が途切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1) カメラとスマートフォンが離れていると、カメラに接続できません。 2) スマートフォンが他の無線LANに接続している可能性があります。スマートフォンのWi-Fi設定で、本機が選ばれているか確認してください(70ページ)。 3) 電子レンジやコードレス電話機、他の無線LAN機器などの機器を近くで使用している場合は、接続が途切れることがあります。機器から十分に離してお使いください。

現象	考えられる原因と対処
その他	
画面に表示される日時や記録したデータの日付が正しくない。	日時の設定が間違っているので、日時を設定し直してください(89ページ)。
画面に表示される言葉が外国語になっている。	表示言語の設定が間違っているので、表示言語を設定し直してください(89ページ)。
パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) USBケーブルが確実に接続されていない可能性があります。コネクタ端子部を確認して、確実に接続してください。 2) カメラの電源が入っていない場合は、電源を入れてください。 3) USBケーブルをUSBハブなどを經由してパソコンと接続すると、正常に認識しない場合があります。USBケーブルはパソコンのUSB端子に直接接続してください。
カメラの電源を入れると、時計設定画面が表示される。	<ol style="list-style-type: none"> 1) ご購入直後の初期設定をしていないか、電池が消耗状態でカメラを放置しています。各設定を確実に行ってください(21, 89ページ)。 2) カメラ内部のメモリー管理エリアが壊れている恐れがあります。この場合は、リセット操作によりカメラの設定内容を初期値に戻してください(91ページ)。その後、各設定を確実に行ってください。再度カメラの電源を入れたときに時計設定画面が表示されなければ、カメラ内部のメモリー管理エリアが修復されました。再度電源を入れても時計設定画面が表示される場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
画面に色々なマークや数字などが表示される	画面には撮影に必要な表示や撮影した画像の情報などが表示されます。▶(しおり)をタッチして表示される“DISP”をタッチすると、画面に表示される情報表示の有無が選べます(9ページ)。
購入後、時計を設定したあと、すぐに電池を抜いたら、設定した時刻がリセットされた。	<p>電池を入れ、時計を設定し直してください(21ページ)。その後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 24時間以上、電池を入れているのに、電池の抜き差しで時刻がリセットされる場合は、カメラの設定保持機能が壊れている恐れがあります。この場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
電源を入れた直後、ボタン操作ができない。	メモリーカードの容量が大きい場合、電源を入れてからボタン操作ができるまでの時間が長くなります。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のときに表示されます。撮影し直してください。
カードが異常です	メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが表示されるときは、フォーマットしてください(91ページ)。 重要 <ul style="list-style-type: none">フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前にパソコン等を利用して、メモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(91ページ)。
この機能は使用できません	機能の組み合わせなどにより使用できない機能を使用した場合、操作の途中で表示されます。
通信が切断されました	カメラとスマートフォンが通信中に、無線LAN接続が切断されると表示されます。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。
ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。
フォルダが作成できません	999番のフォルダの中に9999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を続けるには、不要なファイルを消去する必要があります(29ページ)。
メモリがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切った場合、または編集後のファイルを保存できるメモリーの空きがない場合に表示されます。不要なファイルを消去してください(29ページ)。

レンズエラー	レンズが予期せぬ動作をしたとき、このメッセージが表示され、電源が切れます。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
ALERT	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

撮影可能枚数／撮影可能時間

静止画

静止画サイズ (pixels)	画像ファイル サイズ	内蔵メモリー※1 での撮影枚数	microSD メモリーカード※2 での撮影枚数
12M(4000×3000)	4.13MB	7	2286
3:2(4000×2656)	3.62MB	9	2728
5M(2560×1920)	1.72MB	14	4283
VGA(640×480)	290KB	91	26809

動画

設定内容/ pixels(音声)	転送レート (フレームレート)	1ファイル 最大サイズ	内蔵 メモリー※1 での 撮影時間	microSD メモリー カードでの 最大記録 可能時間※2	1分 録画時の ファイル サイズ	一回 当たりの 連続撮影 可能時間※3
Full HD 1920×1080 (モノラル)	14.2メガビット/秒 (30フレーム/秒)	4GBまで	27秒※4	2時間 14分55秒	106.5MB	36分23秒
HD 1280×720 (モノラル)	10.9メガビット/秒 (30フレーム/秒)		36秒	2時間 56分25秒	81.8MB	47分35秒
HS240 512×384 (なし)	40.0メガビット/秒 (240フレーム/秒)		9秒	48分5秒	300.0MB	12分58秒

※1 内蔵メモリーをフォーマット後の容量(約52.1MB)の場合です。

※2 16GB microSDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製)の場合です。使用するメモリーカードによって撮影枚数・記録時間は異なる場合があります。

※3 1ファイル最大サイズよりも容量の小さいmicroSDメモリーカードを使用する場合、記載の時間より短くなります。

※4 内蔵メモリーでは、Full HD動画の転送レートを十分に満足できません。超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。

- メモリーカードの転送速度によっては記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。
- 撮影枚数／撮影時間は目安(おおよその数値)であり、画像の内容によって少なくなることがあります。
- ファイルサイズ／転送レートは目安(おおよその数値)であり、撮影対象によって変化することがあります。
- 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。
- ハイスピード動画撮影時は、撮影時間と再生時間が異なります。ハイスピード動画で10秒間撮影すると、再生時間は80秒になります。

主な仕様／別売品

画像ファイル形式	静止画: JPEG (Exif Ver.2.3 / DCF2.0準拠) 動画: MOV形式、H.264/AVC準拠、IMA-ADPCM音声 (モノラル)
記録媒体	内蔵フラッシュメモリ (画像記録エリア: 52.1MB※) microSD / microSDHC / microSDXC ※ 内蔵メモリをフォーマット後の容量
記録画素数	静止画: 12M (4000×3000) / 3:2 (4000×2656) / 5M (2560×1920) / VGA (640×480) 動画: Full HD (1920×1080 30fps) / HD (1280×720 30fps) / HS240 (512×384 240fps)
有効画素数	1210万画素
撮像素子	サイズ: 1/2.3型正方形画素高速 CMOS 総画素数: 1276万画素
レンズ / 焦点距離 (静止画)	F2.8/f=3.8mm (35mmフィルム換算21mm相当)
ズーム	超解像 (プレミアム) ズーム / デジタルズーム併用: 4倍 HDズーム / 超解像 (プレミアム) ズーム / デジタルズーム併用最大倍率: 15.9倍 (VGAサイズ)
フォーカス	コントラスト検出方式オートフォーカス ・フォーカス方式: オートフォーカス / マクロ / パンフォーカス / 無限遠選択可能 ・AFエリア: スポット ※ プレミアムオート PRO選択時はインテリジェント
撮影距離範囲 (静止画) (レンズ先端から)	オートフォーカス: 約8cm~∞ マクロ: 約8cm~約50cm 無限遠: ∞
測光方式	撮像素子によるマルチパターン測光
露出制御	プログラムAE

露出補正	-2.0EV~+2.0EV (1/3EVステップ)
シャッター方式	CMOS電子シャッター
シャッター速度	静止画 (オート): 1/10~1/16000秒 静止画 (プレミアムオート PRO): 1~1/16000 秒
絞り	F2.8
ホワイトバランス	オート / 太陽光 / 曇天 / 日陰 / 昼白色蛍光灯 / 昼光色蛍光灯 / 電球 / マニュアルホワイトバランス
感度設定 (標準出力感度)	静止画: オート / ISO100 / ISO200 / ISO400 / ISO800 / ISO1600 / ISO3200相当 動画: オート
画像モニター	3.0型 TFTカラー液晶 (高性能クリア液晶) 921,600ドット 静電容量式タッチパネル
外部接続端子	マイクロUSB端子 (Hi-Speed USB準拠、USB充電対応) HDMI output (マイクロ / TypeD)
マイク	モノラル
スピーカー	モノラル
電源	リチウムイオン充電電池 (NP-150) × 1個
ワイヤレス転送部	準拠規格: IEEE 802.11b/g/n 使用周波数範囲: 1~11ch 暗号化方式: WPA2

電池寿命

下記の電池寿命は温度23°Cで使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

静止画撮影枚数※1	約260枚
動画実撮影時間 (Full HD動画)※1	約55分
動画連続撮影時間 (Full HD動画)※2	約1時間30分
動画連続撮影時間 (ハイスピード動画) ※2	約1時間40分
連続再生時間 (静止画)※3	約3時間20分

- 使用電池:
NP-150(定格容量:950mAh)
- 記録メディア:16GB microSDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製 UHS-1シリーズ)

※1 CIPA(カメラ映像機器工業会)規格に準ずる

※2 カシオ基準による

※3 温度(23°C)、約10秒に1枚ページ送り

- 前記は、お買い上げ後初めて充電したときの数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。
- オートフォーカスの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

消費電力 DC3.7V 約3.5W

外形寸法 幅128.9mm×高さ61.6mm×奥行き14.9mm

質量 約170g(電池およびメモリーカード含む※)
約149g(電池およびメモリーカード除く)
※16GB microSDHCメモリーカード
(SanDisk Corporation製)

■ リチウムイオン充電電池 (NP-150)

定格電圧 3.7V

定格容量 950mAh

使用周囲温度 0~40°C

外形寸法 幅34.2mm×高さ39.8mm×
奥行き6.9mm(突起部除く)

質量 約20g

■ USB-ACアダプター (AD-C54UJ)

入力電源 AC100-240V 50/60Hz
90mA

出力電源 DC5.0V 650mA

使用周囲温度 5~35°C

サイズ 幅64.6mm×高さ38.4mm×
奥行き24mm(突起部除く)

質量 約40g

別売品

- リチウムイオン充電電池 NP-150
- USB-ACアダプター AD-C53U
- ソフトケース ESC-310
- ネックストラップ ENS-2

別売品は、お買い求めの販売店、またはカシオ・オンラインショッピングサイト(e-カシオ)にご用命ください。
e-カシオ: <http://www.e-casio.co.jp/>

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトでもご覧になることができます。

<http://casio.jp/dc/>

CEマーキングは、ヨーロッパ地域の基準適合マークです。



The copy of the Declaration of Conformity can be found on
<http://world.casio.com/ce/dc/>.

To comply with the relevant European RF exposure compliance requirements, a separation distance of at least 20cm in WLAN operation must be maintained between the EX-TR15 and the operator body. This EX-TR15 must not be co-located or operating in conjunction with other transmitter.

Note: This equipment is intended to be used in all EU and EFTA countries.
Outdoor use may be restricted to certain frequencies and/or may require a license for operation.

For more details, contact your customer service representative.

Hereby, CASIO Europe GmbH, Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany, declares that this Digital Camera Model EX-TR15 is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC

CAUTION

Risk of explosion if battery is replaced by an incorrect type.
Dispose of used batteries according to the instructions.

索引

英数字

DCF 規格	85
DISP	9
EV シフト	52
EXILIM Remote	69
Full HD 動画	40
HDMI	60, 90
HDR	43
HD ズーム	37
HS 手ブレ補正	44
HS 夜景	44
ISO 感度	54
Language	89
LED ライト	50
microSD メモリーカード	22
microSDHC メモリーカード	22
microSDXC メモリーカード	22
QuickTime	83
USB ドライブ	82

あ

アートショット	33
いち押しショット	45
印刷	75
液晶設定	86
液晶モニター	8, 12
オート撮影	26
オートパワーオフ	25
オートフォーカス	31, 54
音量	87

か

回転表示	66
拡大	60
画素	51
画像サイズ	51, 66
画面自動回転	86
キャラクター切り抜き	63
キャラクター貼り付け	64
クイック送信	72

さ

再生 (再生モード)	29, 57
撮影 (撮影モード)	26, 32

撮影レビュー	55
時刻	21, 89
自分撮り	39
自分撮りチェック	56
充電	16, 95
消去	29
ズーム	37
スマートフォンから見る	74
スマートフォンへ送る	72, 73
スライドショー	63
スライドパノラマ	46
静止画	26, 29
静止画サイズ	50
セルフタイマー	49
操作音	87
送信時リサイズ	74, 86

た

タイムスタンプ	87
タッチシャッター	49
タッチパネル	14
超解像ズーム	37
デジタルズーム	37
手ブレ	40
テレビ	60
電源	16, 25, 95
電池	16
電池残量	20
動画	39, 57
動画画質	40, 51
トリミング	67

な

内蔵メモリー	22
日時	21, 88, 89
日時設定	89

は

ハイスピード動画	40
パソコン	77
パンフォーカス	54
日付	21, 87, 89
表示言語	89
表示スタイル	89
ピント	27, 31
ファイル	84

フォーカスフレーム.....	27
フォーカス方式.....	54
フォーマット.....	24, 91
フォルダ.....	84, 85
プリンター.....	75
プリント.....	75
フレーム.....	64
プレミアムオート PRO.....	26
プレミアムズーム.....	43
プロテクト.....	65
ペイント.....	62
ベストショット.....	42
ホワイトバランス.....	53

ま

マクロ.....	54
ムービー.....	39, 57
ムービーカット.....	58
無限遠.....	54
無線 LAN.....	68
無線 LAN パスワード.....	90
メイクアップ.....	35
メッセージ.....	102
メッセージの言語.....	89
メニュー.....	48
メモリーカード.....	22, 91, 97
モーションシャッター.....	36

や

夜景撮影.....	100
-----------	-----

ら

リサイズ.....	66
リセット.....	91
リモート撮影.....	70
露出補正.....	52

わ

ワールドタイム.....	88
--------------	----

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

MA1308-B

© 2013 CASIO COMPUTER CO., LTD.